



CSRレポート 2011

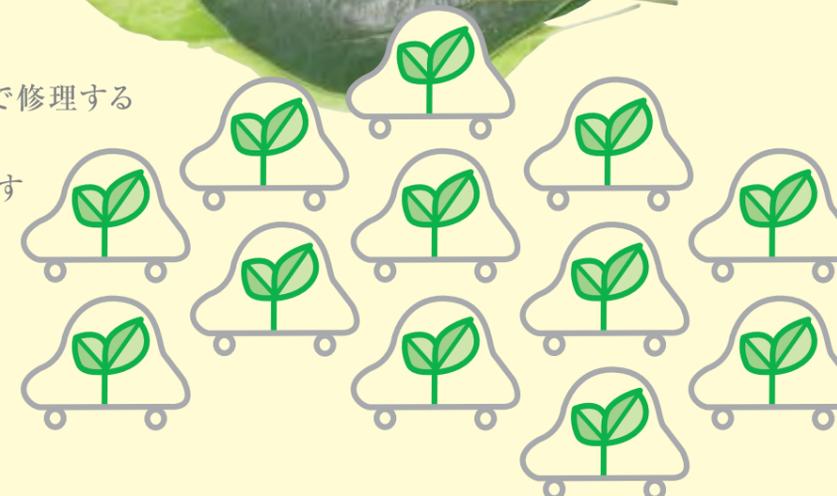
Corporate Social Responsibility Report

社会から信頼される企業集団をめざして

www.ngp.gr.jp



リサイクル部品で修理する
「エコカー」が
最近増えています



NGP日本自動車リサイクル事業協同組合 環境委員会

〒108-0074 東京都港区高輪3-25-33長田ビル2F TEL.03-5475-1208

2011年10月24日発行



NGPはグリーン購入ネットワークの会員です



この印刷物はエコマーク認定の100%再生を使用し、大豆油インキで印刷されています。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合

持続可能な地球環境保全活動に取り組みながら 新たな環境経営を創造していきます

地球温暖化、環境汚染、資源の枯渇など取り組まなければならない課題が山積みしています。

自動車業界においても、EVやHVなどの次世代環境車の開発が急ピッチで進んでいる中、私ども自動車リサイクル事業者は新時代に適応した環境経営の高度化が求められています。

NGPは循環型クルマ社会構築のため、リサイクル部品の品質基準を堅持し新技術の研究開発にチャレンジしていきます。今後も使用済み自動車の適正処理と同時に、リサイクル部品の普及・啓蒙活動に全力投球していきます。

供給

自動車依存型社会において、安定的に質の高いリサイクル部品を供給することが私たちの使命です。

環境

自動車リサイクル部品をご利用いただくことで、エネルギー利用効率と地球環境を維持する社会環境の構築を目指します。

経済

環境問題はもとより、厳しい競争時代の中、より低廉な料金でご利用できるよう、たゆまぬ経営効率化に努めます。

CSRレポート 2011 CONTENTS

トップメッセージ	2
トップコミットメント	3
特集：東日本大震災被災車両回収業務に取り組んでいます	4
CSRマネジメント	6
NGPの事業活動	12
ステークホルダーとともに	22
環境マネジメント	28
トピックス	32
第三者意見	33
NGP協同組合概要	34

■本報告書の対象範囲

○対象期間
2010年度(2010年9月～2011年8月)の取組みを中心に報告しています。
○対象範囲
NGP日本自動車リサイクル事業協同組合および組合員企業

■編集方針

本報告書はNGPのCSR(企業の社会的責任)活動と取組み成果をステークホルダー(お客様・取引先・地域社会・従業員など)の皆様にご案内して、コミュニケーションを図り、取組みのさらなる向上を目指すことを目的に発行しています。本報告書では主要課題(事業を通じた価値の提供・資源リサイクル・地球温暖化防止対策)を優先的にご報告しています。

東日本大震災で被災された皆様に 心よりお見舞い申し上げます

3月11日に発生した東日本大震災は日本国内・海外に大きな衝撃を与え、深い悲しみに包まれました。犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに早期の復興を祈念し、被災者の皆様には心よりお見舞い申し上げます。

NGPはこの震災で復旧復興の妨げになっている被災車両の撤去活動を組合の総力をあげ、いち早く支援すべきと決断し行動を開始しました。行政との調整で仙台市を中心に4月上旬から車両の撤去をすることになり、4月11日私自身も被災地に入りその被災状況に驚愕しました。圧倒的な津波の痕跡はメディアの情報を超えた悲惨な状況でしばらくは言葉を失うほどでした。現地は警察・消防などの行方不明者の捜索、自衛隊員による瓦礫の撤去が始まっていて、相互に配慮しながらのデリケートな作業となり、大量の瓦礫・泥と奮闘する困難な作業でした。約2ヶ月間で2,000台の被災車両を撤去し、組合員は延べ854名が従事するNGPとしても大きな支援活動になりました。今後はその被災車両の円滑な適正処理に尽力してまいります。

さて昨年は「エコカー購入補助金」「家電エコポイント」といった政府の国内消費刺激策によって景気は徐々に回復へと歩み始めましたが、本格的な回復軌道に乗らないうちに予定の補助金が終了、制度の縮小など、これら政府刺激策の反動による景気悪化が懸念されるようになりました。今年に入っても震災の影響もあり、未だに自動車産業は厳しい状況が続いておりますが、ユーザーの自動車保有が長期化するなかで修理需要だけは増加傾向を示すようになってきました。こうした需要に合わせ「安心、安価な修理サービスができ、環境にもやさしいリサイクル部品」を今後も積極的にアピールしていく事を推進してまいります。

本年は新しいサービスの提供にも努めました。二

酸化炭素(CO₂)排出削減のためにNGPが独自に取り組んできたリターナブル梱包材はドア・フェンダー用に加えてバンパー用梱包材の運用を開始しました。また「グリーンポイントシステム」により提示しているリサイクル部品利用にともなう「CO₂排出削減データの見える化」についても、7月からすべての見積書・納品書・請求書に標記し、ユーザー向けのシンボリックな環境情報としてお客様に提供を開始しました。これらを通じて整備事業者の皆様が積極的に取り組み始めている「環境整備」を側面から支援できることを期待しています。

リサイクル部品の省エネによる地球温暖化防止への貢献はもちろんのこと、ますます変化する市場に安全な商品を提供し続ける社会的責任の重要性について本年はあらためて東日本大震災の体験から痛感することになりました。

皆様には今後もNGPの事業活動にご理解とご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

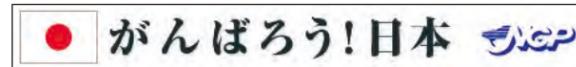


NGP日本自動車リサイクル事業協同組合
理事長 大橋 岳彦

特集 本年4月NGP現地対策本部を立ち上げ、被災車両の回収業務を開始

東日本大震災の復興支援に取り組んでいます

NGPは仙台市内に現地対策本部を設け、東日本大震災の被災車両回収業務を実施しました。震災被害地の復興支援への一助にと、被災車両回収事業に組織をあげて取り組んでいます。



2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震で、亡くなられた方々にお悔やみを申し上げますとともに、被災された皆さまには心からお見舞い申し上げます。
被災された皆さまの安全と被災地の一刻も早い復旧をお祈り申し上げますとともに、NGPグループは復旧に向けた出来る限りの支援を行って参ります。



NGPはあいおいニッセイ同和損害保険の協力を得て、仙台市若林区のあいおいニッセイ同和自動車研修所に「NGP被災車両対策本部」を設置し組合員57社が参加を表明しました。4月11日には第1陣が現地入りし、同本部を拠点に被災車両を自治体が設けた一時保管場所まで引き上げる支援事業の取り組みを始めました。東日本大震災は地震の大きな揺れによる被害に加え、直後に発生した巨大な津波により、被災地域は北海道から千葉県までと広範囲にわたりますが、とりわけ大きな被害が集中した岩手、宮城、福島3県を対象に被災車両の引き取り業務を、NGPをはじめとした自動車リサイクル業界が一致団結して取り組むことになりました。

宮城県では港湾近くの物流拠点も津波に巻き込ま

れており、大型トラックも多数被害にあいました。宮城県だけで大型トラックからマイカーまで、被災車両は14万6000台に達する甚大な被害が出ています。震災直後に物資輸送のための道路確保で、わきに片づけられた被災車両もありますが、横転したり、重なりあったり、被災家屋に食い込んだり、津波による海水が引いていない地域では水没したままであったりと、回収・引き上げといっても、簡単に作業できない状態の車両が相当ありました。その一方で、逃げる途中で津波に巻き込まれた車両では、社内に残された遺留品が思い出の品となるといったケースも考えられるため、作業時の被災車両の取り扱いには慎重にしなければなりません。

第1陣は大橋理事長を筆頭に15社29人の組合員

が参加しました。クレーン付トラック8台をそろえ、フォークリフトなどを持ち込みましたが、不慣れた土地ということもあり、作業は難渋を極め、当初の見込みより負担は大きかったというのが実感です。

続く第2陣は24社36人が、また第3陣は26社37人のメンバーが交代で引き上げ作業に協力しました。このスタートから業界をあげての体制は仙台市を中心にローテーションで約2ヶ月間実施し、NGPは延べ854人の組合員が参加する約2,000台の車両撤去活動になりました。東日本大震災の被災車両の数は大量で、処理業務はまだまだ相当な期間を要するものと見られます。今後も引き続き回収支援に取り組んでいきます。

VOICE ● 参加者の声

到着した現地の悲惨な状況を目にして立ちすくんだ。強烈な悪臭と寒さ・砂ほこりに、防じんマスク・防じんメガネで被災車両の引き上げを開始した。損壊住宅から車両を引き揚げる際に散乱した衣類など様々な生活の痕跡があり、時折見かける泥だらけのランドセルや子供の靴を目にするたびに涙がこぼれた。 株式会社大橋商店 大石 利明

自衛隊員・警察署員・消防署員の行方不明者捜索活動の傍らで神経を使いながらの回収作業でした。山のようなガレキのなかで被災した家屋を黙々と片付けている住人の姿に励まされ続けました。毎日泥まみれの大変な一週間でしたが、最終日には出来れば自分だけは残ってこのまま作業を続けたいという思いに、後ろ髪を引かれながらの帰途でした。 株式会社永田プロダクツ 後藤 学

NGPにおけるCSR

■本業を通じて、環境社会課題の解決を目指します

NGPは地球環境保全を願って2002年、「基本理念」「行動指針」を制定し、組合員が共有すべき価値観・心構えとする活動基準を示しました。これを組合員一人ひとりが日々念頭において活動することが、NGPのCSR活動の根本になっています。使用済み自動車の適正処理を円滑に機能させ、質の高いリサイクル部品が市場に流通する循環型社会構築に向けて社会的使命を果たし続けます。

またNGPは発足以来「お客様への優れた価値の提供」を重視し、お客様を最も優先するナンバーワンのステークホルダーであると位置づけし、グループ全体で「お客様第一」の姿勢を貫くことで事業を成長させてきました。これからも「お客様第一」による持続的成長を遂げることがCSR経営であると考え、お客様をはじめとするステークホルダーの皆様へ提供する価値をさらに高め、社会ニーズを解決する取り組みに積極的にかわり、地域・社会と共生する企業価値を高めていきます。

CSR活動はステークホルダーとのコミュニケーションが重要と考えます

NGPの事業活動は、多くのステークホルダーの皆様（利害関係を有する方々）との協力で進められています。私たちの理念の実践とCSRを果たすためには、それぞれのステークホルダーの皆様への責任を明らかにするとともに、日頃よりさまざまな方法で皆様のご意見・ご要望をお聞きして、経営目標に反映させます。

●主なステークホルダーとNGPの責任

<p>お客様</p> 	<p>お客様はお車に関連する個人・法人の多岐にわたります</p> <p>主な責任</p> <ul style="list-style-type: none"> ●お客様満足の向上 ●安心・安全な製品とサービスの提供 ●お客様への適切な対応とサポート ●製品情報の適切な提供 ●個人情報の適正管理 	<p>従業員</p> 	<p>組合員企業の従業員総数は約3,000人、CSR推進の中心的人材です</p> <p>主な責任</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人権の尊重 ●人材育成と活用 ●公正な評価・処遇 ●職場での安全衛生と健康管理 ●個人情報の保護
<p>組合員(会員)</p> 	<p>組合員総数は142社198拠点</p> <p>主な責任</p> <ul style="list-style-type: none"> ●企業価値の維持・増大 ●適時・適切な情報開示 ●社会的責任への対応 	<p>地域社会</p> 	<p>それぞれの地域の環境・文化・歴史・慣習を尊重する活動</p> <p>主な責任</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域の文化・慣習の尊重 ●環境への配慮 ●地域社会への貢献活動 ●事業所での事故・災害防止
<p>取引先</p> 	<p>継続的に取引している調達取引先は多岐にわたります</p> <p>主な責任</p> <ul style="list-style-type: none"> ●公正な取引 ●調達取引の公平な選定 ●オープンな取引機会 	<p>政府・自治体</p> 	<p>国・市町村役所・出先機関・関連団体など多岐にわたります</p> <p>主な責任</p> <ul style="list-style-type: none"> ●法令の遵守 ●税金の納付 ●社会問題の改善・解決のための政策への協力

基本理念

これからも環境リサイクル時代の社会貢献活動に取り組みます

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合の前身であるNGPグループは1985年(昭和60年)に結成され、2004年には国内唯一の経済産業大臣認可の事業協同組合として組織を法人化いたしました。

環境問題や資源問題に対する意識が全世界規模で高まる昨今、国内でも産業の裾野が広い自動車業界では、特に積極的な対応が求められています。

また2005年からは、自動車リサイクル法が完全施行となり、法令遵守、使用済み自動車の適正処理が義務付けとなりました。

このような時代背景から、NGPグループではこれまで、従来のリサイクル部品共有在庫ネットワークの運営を行うとともに、使用済み自動車適

正処理ネットワークとして全会員参加によるエコ推進運動の展開、損害保険会社・リース会社等の全損車輛取引マニュアルを作成し、その適正処理を遵守した業務や自動車リサイクル法等の新たな制度説明会などの組織的活動を展開してまいりました。

さらに前述のとおり組織を法人化することで急激に進む環境保全への迅速な対応、専門性を追求する役割に対してNGP協同組合の組合員が果たすべき使命を全うできるような体制を整えました。

NGP協同組合はこれからも、リサイクル部品の規格統一化、技術教育、啓蒙活動など、環境リサイクル時代の社会貢献活動をNGP協同組合組織活動の主課題として全力で取り組んでいきます。

NGPグループ21世紀宣言

- 一、我々は、使用済み車輛を適正に処理します
- 一、我々は、自動車リサイクル部品を全面的に啓蒙します

我々NGPグループは、リサイクル部品流通業界のリーダーとして、一人ひとりが責任を持ち、21世紀の社会に貢献していくことを誓います。2005年施行の自動車リサイクル法に合わせ、地域社会に信頼され、存在価値のあるグループを目指します。

行動指針

- ① 環境保全活動を当グループの最重要課題と位置づけ、グループ全従業員の共通認識とします。
- ② 環境に関する法律、規制、自動車リサイクル法等を遵守し環境保全に取り組みます。
- ③ 環境負荷低減のため、環境目的・環境目標を定め、定期的に見直しを行うことにより、継続的な改善を図ります。
- ④ 工場内における解体作業については、適正かつ効率的なリサイクルが行われるよう解体技術の向上に努めます。また、同時に廃車車輛の全てにマニフェスト発行による管理を徹底します。
- ⑤ 設備の稼働については通常時のみならず、非通常時においても廃棄物の漏残、飛散等の未然防止、及び騒音の削減等の地域環境保全に努めます。
- ⑥ 事業活動全般に関して大気汚染、土壌汚染、水質汚染、悪臭の防止に努めます。
- ⑦ グリーン購入法に基づき、使用物品等を見直し、再生紙などの利用促進をするとともに、電気・水道水等のエネルギー消費の低減に取り組みます。
- ⑧ 定例ブロック会議を通して本方針を全グループ企業に周知させるとともに、グループ全従業員に対して教育し、自覚と意識の向上を図り、広く一般に開示します。

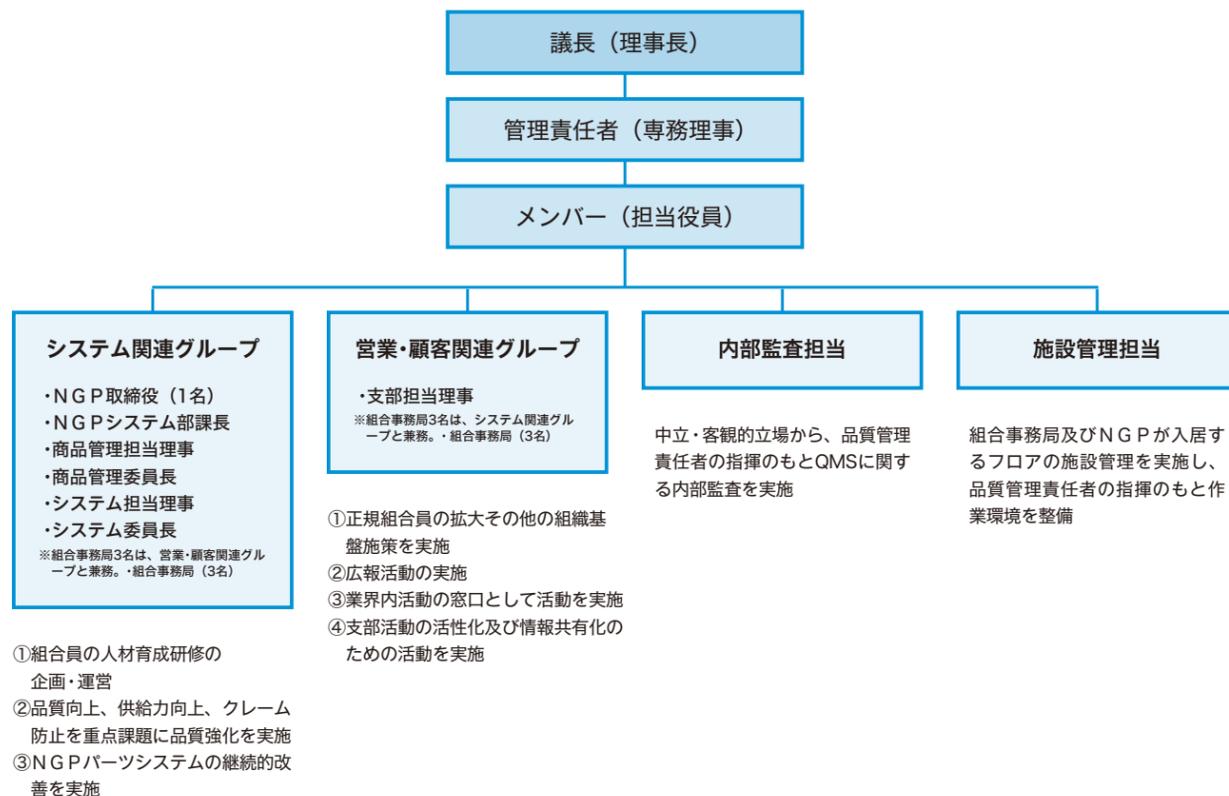
コーポレートガバナンス

■組合の機動性と指導監督機能を高め NGPの価値向上を目指します

NGPは長期的な企業業績の維持・向上とCSR経営の継続的な推進により、企業価値の増大に向けたガバナンスの確立に取り組んでいます。

NGPはさまざまなステークホルダーに向け、社会における課題に対応するため、内部統制の仕組みを整備して、健全性・効率性・透明性の高い経営を実践していきます。基本理念・行動指針制定以来、理事長を議長として各部署の把握、担当役員全員がメンバーになり、CSRに関する組合員企業の課題についての方針や対応を毎月定例として検討しています。経営環境の変化に的確に対応し、グループ経営の強化により企業価値を向上することがコーポレートガバナンスの基本であると考えています。

■コーポレート・ガバナンス体制



●CSR経営の活動基本

1. すべての事業活動は、生命・安全・コンプライアンスを最優先します
2. CSR活動
 - (1) 環境マネジメントの推進
 - (2) 品質マネジメントの推進
3. ステークホルダーへの説明責任

■内部統制する組織体制

組合員は職務の執行にあたり、関連法令ならびに組合定款、基本理念、行動指針、品質マネジメント、コンプライアンス規制および個別の組合規則、通達等を遵守するものとし、これを確保するための体制を整備しています。

コンプライアンス・リスクマネジメント

■コンプライアンスの取組み

NGPは社会から信頼・共感されるための基盤はコンプライアンスが事業活動の原則であることから、コンプライアンス意識の向上に努めるとともに、ステークホルダーへの期待に応えるという意味にも捉え、リスク管理体制の強化を進めています。

NGPは基本理念に基づき、経営トップが率先して一人ひとりが公の立場に立って、法令遵守はもとより社会規範・企業倫理に則って誠実に行動するものとしています。そのため組合員企業の組織風土を継続的に変革するとともに、不正防止、責任体制の確立に取り組んでいます。

■コンプライアンスの具体的基準

組合員が遵守しなければならない具体的基準として、次の22項目を掲げています。さらにコンプライアンス規制では、その他すべての関連法令も遵守対象としています。

■コンプライアンスの具体的基準（22項目）

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 安全管理 | 13. 不当差別の禁止 |
| 2. 環境保護 | 14. セクシャル・ハラスメントの防止 |
| 3. 消費者保護 | 15. 個人情報の保護 |
| 4. 独占禁止法の遵守 | 16. 児童労働、強制労働の防止 |
| 5. インサイダー取引の禁止等 | 17. 利害相反行為の禁止 |
| 6. 不正競争防止法の遵守 | 18. 会社資産の使用禁止 |
| 7. 政治家、官公庁、公務員との公正な関係 | 19. 会社情報等のセキュリティ確保 |
| 8. 情報開示、責任説明 | 20. 適正な輸出管理 |
| 9. 反社会的勢力への対応 | 21. 投機目的取引の禁止 |
| 10. 適正な会計処理 | 22. 危機管理の徹底 |
| 11. 労働時間等の公正申告 | |
| 12. 贈答品等の受領禁止 | |

■コンプライアンスの推進体制

組合員におけるコンプライアンスは理事会の下部組織として設置された委員会を中心に推進されています。コンプライアンスに係る教育・啓蒙活動方針

を策定するほか、重点テーマについて取組状況を把握し、評価しています。

■リスクマネジメント

NGPは事業活動を遂行するうえで経営に重大な影響を与える危機を予防し、万一危機が発生した場合に対処する仕組みをつくることは重要な経営課題と認識しています。事業構造・環境変化など今後のリスク管理体制を構築し、危機の予防と発生時の被害軽減などを重点に置いて取り組みをしています。

■主なリスク項目

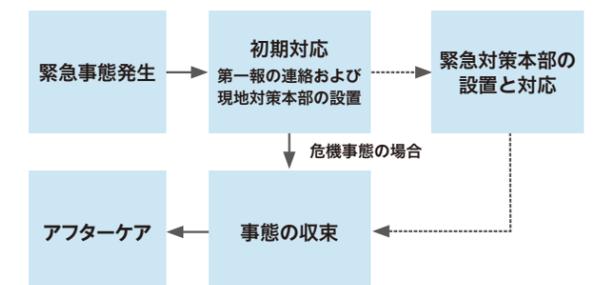
内部要因	環境汚染、労働災害、契約義務違反、生産障害、リコール、苦情トラブルの拡大、人事労働問題、人権問題、機密漏洩、不良債権、情報システム障害、交通事故など
法令違反	独禁法違反、脱税、従業員・役員の犯罪、不祥事、特許侵害など
外的要因	偶発事故、輸送機能トラブル、株の買占め、株主代表訴訟、サイバーテロなど
災害・事変	自然災害、急激な為替・金利の暴騰、遭遇事変など

■災害の未然防止と緊急時対応

組合員は事業活動において 大量の危険物を取り扱っています。したがって火災・爆発事故・労働災害といった災害の未然防止を最大の課題と位置付け、設備保全や運転管理、社員の教育研修など、あらゆる機会を通じて徹底を図ることとしています。

さらに台風・地震などの自然災害やテロ対策を含めた万一の緊急事態発生にも備えて、適切な対応を図る体制を整えています。

■連絡通報および防災活動の指揮方法



リスクマネジメント

特に事故・災害の発生時の対応は連絡通報および防災活動の指揮方法を定めており、これに基づき適切な防災措置を直ちに行うとともに体制が機能することを定期的に確認しています。

■災害発生時の対応

万一事業所内で災害が発生した場合は災害発生事業所などにおいて①災害調査報告書、②対策および再発防止策実施計画表、③災害原因分析表を作成することとしています。作成後本部に報告され、理事会において検討されます。最終的に本部で共有化し、再発や類似災害の防止を図ることとしています。

プライバシーポリシー 個人情報の取り扱いと管理について

規定遵守の呼びかけとともに、きめ細かな指導を行っています

個人情報保護方針

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合（以下「本組合」という。）は、本組合の事業活動を通じて得た個人情報の保護に努めることを社会的責務と認識し、以下の方針に基づき個人情報の保護に努めます。

1. 個人情報の取得について

本組合は、適法かつ公正な手段によって、個人情報（氏名、性別、生年月日、住所、電話番号、FAX、メールアドレス、所属組合、役職、その他の記述により当該本人を識別できるもの）を取得いたします。

2. 個人情報の利用について

本組合は、本組合の事業活動やサービス提供の過程で収集した個人情報を本組合事業活動及びサービス提供とこれに付随する業務を行う目的の範囲内で利用させていただきます。

上記以外の目的で利用する必要がある場合には、あらかじめご本人の承諾を得ることを前提といたします。また、収集した個人情報の取扱いを外部に委託する場合には、委託先について厳正な調査を行ったうえで、個人情報の漏洩等の事故が発生しないよう適正な監督を行います。

3. 個人情報の第三者提供について

本組合は、下記の場合を除き、個人情報を、事前に本人の同意を得ることなく、第三者に提供いたしません。

(1) 法令に定める場合

(2) 国の機関若しくは地方公共団体又はその委託を受け法令の定める事務を遂行することに対して協力する必要がある場合であって、本人の同意を得ることにより当該事務の遂行に支障を及ぼすおそれがあるとき。

4. 個人情報の管理について

(1) 本組合は、個人情報の正確性を保ち、これを安全に管理いたします。

(2) 本組合は、個人情報の紛失、破壊、改ざん及び漏洩等を防止するため、不正アクセス、コンピュータウイルス等に対する適正な情報セキュリティ対策を講じます。

(3) 本組合は、個人情報を持ち出し、外部へ送信する等によりこれを漏洩させません。

5. 個人情報の開示・訂正・利用停止・消去等について
本組合は、本人が事故の個人情報について、開示・訂

正・利用停止・消去等を求める権利を有していることを認識し、これらの要求がある場合には、誠実に対応いたします。

6. 組織・体制

(1) 本組合は、個人情報保護管理責任者を置くとともに、個人情報を取り扱う部門ごとに部門責任者を置き個人情報の適正な管理を実施いたします。

(2) 本組合は、従業員に対し個人情報の保護及び適正な管理方法についての研修を実施し、日常業務及び退職後における個人情報の適正な取扱いを徹底いたします。

7. 個人情報保護コンプライアンス・プログラムの策定・実施・維持・改善

本組合は、この方針を実行するため、個人情報保護コンプライアンス・プログラム（本方針・個人情報保護規程その他の規程を含む）を策定し、これを本組合従業員その他関係者に周知徹底させて実施し、維持し、継続的に改善いたします。

■情報セキュリティ対策

NGPは他者からお預かりした情報も含め、すべての情報の安全確保と適正な活用を行うために、社内外の脅威と脆弱性から情報を守るルールを定めて、情報セキュリティおよび個人情報保護活動に取り組んでいます。2005年「プライバシーポリシー」の策定、2007年本部のコンピュータセキュリティの強化を実施し、万全のセキュリティ対策の確立を目指して、定期的で適切なメンテナンスを実施しています。また組合員全社で個人情報保護の正しい理解の徹底と社内体制の整備・向上を図っています。特に注意すべき項目を「重点項目」として各組合員に通知し、全従業員に注意喚起を促しています。

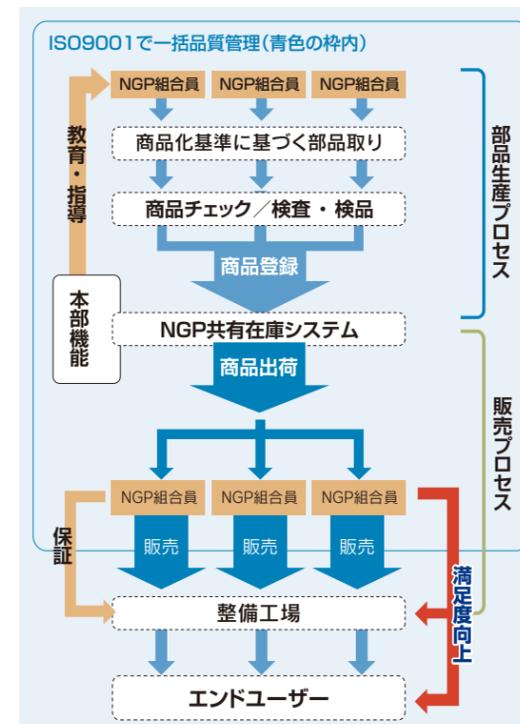
品質管理マネジメント

■ISO基準による品質向上の取り組み

NGPは発足以来リサイクル部品を安心して利用していただくためにグループ内での品質基準を設け、適正な製品だけを共有在庫として取扱い、市場に供給する努力をしてきました。この結果自動車リサイクル部品としての「NGPブランド」が定着し、さらに世界基準の品質で自動車リサイクル部品を提供することを目指し、2007年にISO9001の認証取得を行いました。本部で運営する共有在庫システムを軸に、組合員の部品生産・登録までの全プロセスを一括してISO9001でマネジメントし品質管理を本部が負うとの方式で認証取得しました。

NGPは自動車リサイクル部品の生産・登録業務を標準化して品質レベルの揃った製品を在庫し、販売面でも統一的な品質保証レベルを示すことで、お客様に製品を安心して購入いただける体制を確立することになりました。ISO9001認証取得は、部品生産登録の一連の流れが国際的な品質規格で管理されていることを意味します。

■構築する品質管理体制のイメージ



■品質マネジメントの体制

NGPはお客様に満足していただける商品・サービスを提供するため、品質マネジメントを確保する以下の体制を整備しています。

■それぞれの役割

(1) 理事長の役割

品質マネジメントシステムの構築およびその実施、ならびにその結果が計画通りに達成されるよう改善します。

(2) 専務理事の役割

専務理事は品質管理責任者に位置づけられ、品質管理責任者は理事長を補佐し、品質マネジメントに関する業務の一切を統括します。

(3) システム関連グループの役割

「商品化基準」および「NGPパーツシステム」の制作・運用管理を中心に活動し、組合員からの意見を吸い上げ、改善へとつなげていきます。

(4) 営業・顧客関連グループの役割

各支部の活動と連携しながら「商品化基準」の製作・運用管理に関する組合員からの意見や、ユーザーからの苦情を収集・分析し、改善のための活動を実施します。

(5) 商品管理責任者

「品質マネジメント」の徹底を図るために各組合員は企業内に商品管理責任者を配置して、製品の生産・検査から保管・登録までの管理と品質向上の業務を実施します。

品質管理に関する基本活動に取り組んでいます

製品安全のための品質確保とお客様への積極的な情報開示を誠実に実施しています

●品質管理に関する基本活動

1. お客様の立場にたった品質の確保をします
2. 関連法令と契約を遵守してお客様の権利を尊重します
3. さらなる品質システムの研究・開発をします
4. 事故発生などの原因追及による本質改善に努力します

信頼されるNGPであるために

CSRを果たすための活動基本は「生命・安全・コンプライアンスの最優先」です。いかなる場合でも法令・社会規範・倫理の遵守を優先して、市場の公正な競争により事業発展していくことがNGPの使命です。またCS向上の為にリサイクルパーツの品質管理が重要になり、そのためのクレーム情報の開示を積極的に進めていきます。NGPはお客様・従業員・地域社会・取引先などのさまざまなステークホルダーの皆様を支えられています。日常の営業活動、生産活動、サービス体制などで必要な説明は適切・的確・誠実な対応を心がけたいと考えます。



NGP日本自動車リサイクル事業協同組合
専務理事 宮地康弘

2010年度事業報告

当期に於けるわが国経済は未曾有の東日本大震災を境にすべての環境が一変し、その深刻さは経済活動に留まることがなく、多くの犠牲者、被災者の悲痛な思いと空虚感の中で、従来からの価値観まで見直さざるを得ないほどの危機に直面しました。

さらに福島原発事故により企業、国民に節電を強いられることとなり困難な状況を増幅させ、加えて株安や極度の円高などで国内はもとより海外の経済もギリシャ危機などの不安を募っています。このように世界同時不況の様相を呈し、当然のように一般消費者の購買意欲は極端に低下し復調の兆しも見えていない状況となっています。特に中小零細企業は厳しい事業環境にさらされており一刻も早い震災復興・経済回復が望まれるところです。とりわけ政治主導によるテコ入れ策に負うところが大きいことから思いきった政策や景気対策に期待しなければなりません。

このような大災害・大事故の混乱の中、リーマンショック後によく回復基調となっていた自動車需要は、サプライチェーンの寸断など部品の調達不能による生産低下や消費マインドの一層の冷え込みにより4～8月では前年比マイナス29.8%と大幅減となり未だ回復していません。日本自動車工業会では12年3月期の新車販売は前年比3.3%減の445万300台で34年前の水準と予測しています。

また自動車総整備売上は総売上が5兆4869億円(11年3月期)と辛うじて3年連続の下落に歯止めがかかりましたが、整備内訳では一般整備が大きく減少となるなど先行きの懸念材料となっています。

さてNGP協同組合の今期実績は、リサイクル部品総売上金額が429億6594万円と前年比7.2%増加し、MS50戦略以来懸案であった500億円も現実的な数字として捉えるところまで来ました。

また使用済み自動車処理台数は、598,529台 前年比23.7%減という今までに経験したことが無い

大幅減となりました。しかしそのような厳しい入庫状況の中でもリサイクル部品総生産金額は139億2700万円となり、前年実績を5.3%上回ることができました。

当期の組織テーマは「25周年への集大成 そして“次世代”へ」を掲げて活動してまいりました。

主な具体的事業は①Webサイト「NGPエコひろば」の開設 ②「中身も箱もエコ主義!」リターンナブル梱包材のバンパー用の追加開発・運用開始 ③エコプロダクツ2010への大規模出展によるリサイクル部品使用CO₂削減効果の啓蒙活動 ④福岡工業大学との画像計測システムの産学協同研究による計測プロセスの試作 ⑤全国中小企業団体中央会の活路開拓事業による全国整備事業者5000社へ業界初となる意識調査の実施およびネットワーク構築(グループウェア)事業を実施 ⑥経産省・環境省の委嘱を受け、業界代表として産構審・中環審合同会議への出席、政界への陳情などの活動とともに、理事会と委員会との連携を図りつつ事業推進をいたしました。

■直近3年間と本年度のNGP協同組合使用済自動車処理台数と自動車リサイクル部品生産・販売金額



2010年度活動概要

2010年
9月

「第23回経営者研修会」実施

9月5～8日(4日間) 東京新木場・BumB東京スポーツ会館にて次期オーナーを対象とした研修会

「第2回初級生産管理者・フロントマン研修会」実施

9月16～18日(3日間) 東京晴海グランドホテル



10月

「第20回中級研修会」実施

10月4～8日(5日間) 静岡県裾野市・あいおいニッセイ同和自動車研究所東富士センター

「第6回NGP協同組合通常総会」開催

10月25日 東京品川・品川プリンスホテルにて通常総会を開催。その後、来賓・組合員400名参加で懇親会を実施



11月

韓国リビルト工業会と交流覚書を調印

11月9日～11日(3日間)理事会メンバー訪韓。日韓のリサイクル産業の発展協力の覚書を調印



「第10回ハイブリッドカーセミナー」を実施

11月15～16日(2日間) 静岡県裾野市・あいおいニッセイ同和自動車研究所東富士センター 参加者には「低圧電気取扱特別講習修了証」を取得

「リサイクル部品への意識・利用に関するアンケート」「リターンナブル梱包材に関するアンケート」を実施

全国整備事業者5,000社と組合員顧客500社を対象

12月

日本最大の環境展

「エコプロダクツ2010」出展

12月9～11日(3日間)東京ビッグサイト・来場者18万人。CO₂排出削減に役立つ自動車リサイクル部品の利用促進を呼びかける



2011年
1月

「バンパー用リターンナブル」運用スタート

「中身も箱もEco主義」というキャッチコピーで取組み始めたリターンナブル梱包材、運用中のドア用に続く

2月

NGPグループウェアの整備

グループのスケジュール管理・文書管理・申請業務などの情報共有を推進

3月

「第11回ハイブリッドカーセミナー」実施

3月28～29日(2日間) 静岡県裾野市・あいおいニッセイ同和自動車研究所東富士センター



4月

東日本大震災復興支援開始

4月11日宮城県仙台市に「NGP被災車両対策本部」を設置し被災車両の引き上げを開始

5月

リサイクル部品の保証基準・品質基準を業界12団体で共有化開始

日本自動車リサイクル部品協議会傘下12団体 5月15日スタート

「第20回初級営業マン研修会」実施

5月27～29日(3日間) 東京新木場・BumB東京スポーツ文化館にて営業マンとしての心構えと基本マナーの研修会



6月

「第12回ハイブリッドカーセミナー」実施 「第6回生産STEP UP研修会」を実施

6月13～14日(2日間) 静岡県裾野市・あいおいニッセイ同和自動車研究所東富士センター



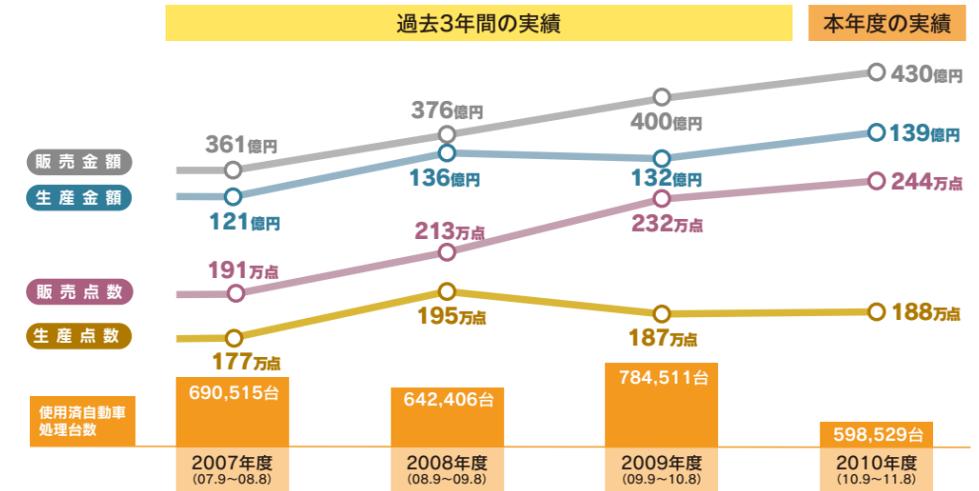
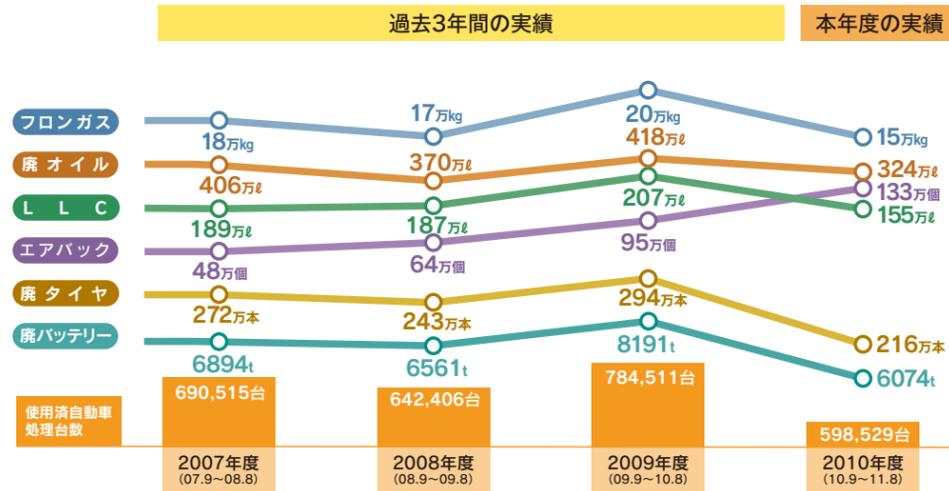
7月

「CO₂削減効果の見える化」スタート

全組合員の発行する見積書・納品書・請求書に部品ごとのCO₂削減数値を標記

使用済自動車の本年度リサイクル実績

リサイクル部品の本年度の生産・販売実績



支 部	使用済自動車処理台数(台)					フロンガス回収処理(kg)					廃オイル回収処理(ℓ)				
	上期	下期	合計	前年	前年比%	上期	下期	合計	前年	前年比%	上期	下期	合計	前年	前年比%
北海道	25,127	21,747	46,874	51,054	91.8	7,072	5,854	12,926	14,476	89.3	114,780	101,107	215,887	228,263	94.6
東北	50,182	49,743	99,925	119,769	83.4	10,413	7,673	18,086	26,070	69.4	319,463	236,382	555,845	680,390	81.7
北関東	56,696	47,014	103,710	146,628	70.7	18,128	12,964	31,092	44,179	70.4	306,752	261,776	568,528	804,480	70.7
南関東	28,410	23,587	51,997	85,273	61.0	9,805	6,006	15,811	25,402	62.2	137,407	102,073	239,480	342,223	70.0
北陸	20,126	21,731	41,857	51,645	81.0	4,941	4,801	9,742	11,493	84.8	125,380	128,855	254,235	299,940	84.8
東海	31,798	30,971	62,769	73,541	85.4	8,523	7,133	15,656	14,684	106.6	163,035	160,425	323,460	351,361	92.1
関西	24,900	24,824	49,724	57,813	86.0	7,110	6,996	14,106	15,702	89.8	94,685	90,025	184,710	210,310	87.8
中四国	46,589	44,939	91,528	123,838	73.9	13,288	11,467	24,755	32,520	76.1	331,739	302,322	634,061	909,890	69.7
九州	26,735	23,410	50,145	74,950	66.9	7,357	5,457	12,814	19,894	64.4	139,518	127,104	266,622	371,608	71.7
合計	310,563	287,966	598,529	784,511	76.3	86637	68351	154988	204,420	75.8	1,732,759	1,510,069	3,242,828	4,198,465	77.2

支 部	LLC回収処理(ℓ)					エアバック展開・回収処理(個)					廃タイヤ処理(本)				
	上期	下期	合計	前年	前年比%	上期	下期	合計	前年	前年比%	上期	下期	合計	前年	前年比%
北海道	77,940	65,796	143,736	154,861	92.8	39,482	36,133	75,615	60,186	125.6	103,755	109,471	213,226	448,216	47.6
東北	135,566	102,351	237,917	401,204	59.3	74,078	74,132	148,210	120,363	123.1	164,072	166,201	330,273	371,368	88.9
北関東	217,422	173,191	390,613	581,103	67.2	107,689	93,724	201,413	210,354	95.7	191,503	163,692	355,195	482,770	73.6
南関東	70,687	76,921	147,608	180,257	81.9	55,689	47,183	102,872	116,776	88.1	106,349	95,276	201,625	300,282	67.1
北陸	50,975	46,620	97,595	113,720	85.8	33,853	32,893	66,746	62,082	107.5	80,289	92,469	172,758	182,049	94.9
東海	83,999	99,095	183,094	186,059	98.4	57,969	54,556	112,525	95,065	118.4	111,242	94,376	205,618	243,944	84.3
関西	28,684	35,658	64,342	75,425	85.3	80,464	65,065	145,529	65,365	222.6	80,464	77,703	158,167	185,702	85.2
中四国	102,449	93,166	195,615	282,134	69.3	188,739	137,385	326,124	149,860	217.6	188,739	164,801	353,540	497,320	71.1
九州	46,699	44,322	91,021	100,468	90.6	85,925	66,261	152,186	78,828	193.1	85,925	81,407	167,332	228,719	73.2
合計	814,421	737,120	1,551,541	2,075,231	74.8	723,888	607,332	1,331,220	958,879	138.8	1,112,338	1,045,396	2,157,734	2,940,370	73.4

支 部	廃バッテリー処理(kg)				
	上期	下期	合計	前年	前年比%
北海道	279,958	242,663	522,621	800,710	65.3
東北	449,382	405,241	854,623	1,019,690	83.8
北関東	567,234	505,435	1,072,669	1,762,780	60.9
南関東	294,736	248,163	542,899	774,218	70.1
北陸	202,661	212,440	415,101	440,737	94.2
東海	433,427	413,293	846,720	880,649	96.1
関西	190,945	188,744	379,689	507,857	74.8
中四国	487,875	446,944	934,819	1,323,931	70.6
九州	302,395	202,729	505,124	680,523	74.2
合計	3,208,613	2,865,652	6,074,265	8,191,095	74.2



※(上期) 2009年9月~2010年2月 / (下期) 2010年3月~8月

支 部	リサイクル部品 生産点数(点)					リサイクル部品 生産金額(千円)					リサイクル部品 販売点数(点)				
	上期	下期	合計	前年	前年比%	上期	下期	合計	前年	前年比%	上期	下期	合計	前年	前年比%
北海道	134,245	148,474	282,719	285,963	98.9	822,676	912,605	1,735,281	1,638,022	105.9	180,779	182,282	363,061	323,886	112.1
東北	112,918	97,495	210,413	238,327	88.3	690,400	651,108	1,341,508	1,387,755	96.7	91,444	89,625	181,069	181,699	99.7
北関東	90,041	121,130	211,171	194,095	108.8	918,930	954,427	1,873,357	1,740,124	107.7	225,444	241,246	466,690	444,524	105.0
南関東	81,279	81,008	162,287	161,289	100.6	561,159	550,404	1,111,563	1,105,265	100.6	159,152	163,190	322,342	322,727	99.9
北陸	83,473	88,058	171,531	173,595	98.8	888,461	879,886	1,768,347	1,482,945	119.2	74,035	77,211	151,246	144,965	104.3
東海	114,902	122,935	237,837	214,766	110.7	1,038,308	1,052,071	2,090,379	1,905,688	109.7	179,181	192,978	372,159	326,004	114.2
関西	60,098	62,050	122,148	123,871	98.6	486,957	500,930	987,887	978,429	101.0	63,935	69,444	133,379	127,969	104.2
中四国	148,951	153,345	302,296	295,544	102.3	966,850	965,818	1,932,668	1,911,756	101.1	112,981	118,106	231,087	218,692	105.7
九州	85,758	97,500	183,258	183,349	100.0	508,715	577,753	1,086,468	1,072,876	101.3	103,687	111,422	215,109	210,148	102.4
合計	911,665	971,995	1,883,660	1,870,799	100.7	6,882,456	7,045,002	13,927,458	13,222,862	105.3	1,190,638	1,245,504	2,436,142	2,300,614	105.9

支 部	リサイクル部品 販売金額(千円)				
	上期	下期	合計	前年	前年比%
北海道	2,412,690	2,528,350	4,941,040	4,575,557	108.0
東北	1,803,841	1,749,607	3,553,448	3,499,481	101.5
北関東	3,555,111	3,906,452	7,461,563	6,870,431	108.6
南関東	2,967,400	3,141,443	6,108,843	5,802,044	105.3
北陸	1,497,625	1,677,933	3,175,558	2,849,331	111.4
東海	2,987,317	3,184,131	6,171,448	5,619,677	109.8
関西	1,346,191	1,476,225	2,822,416	2,644,252	106.7
中四国	2,326,048	2,456,695	4,782,743	4,508,113	106.1
九州	1,866,017	2,082,869	3,948,886	3,704,597	106.6
合計	20,762,240	22,203,705	42,965,945	40,073,483	107.2



VOICE ● 組合員の声

安心な商品の提供に向けて

私たちの販売するリサイクル部品の社会的責任と使命は「安全に使用できる」が大前提です。その実現のためにはNGPのルールを守り、スタッフ全員が徹底することに尽きると思っています。当社では数多くのスタッフが仕事をしています。毎日入庫する車両に油断せず、必要に応じてきめ細かな指示と打ち合わせを重ね、日々の技術指導の継承を大切にしています。こうした確かな品質管理に取り組んでいることが商品の安全につながっていくのではないのでしょうか。



商品管理副委員長
今里 嘉之
(南安全自工 営業部長)

委員会活動に参加して

活動を通じて感じたことは、テーマの設定、現状把握、原因の追究と各段階にて執拗にメンバーと議論したことです。的確な提案を立案し実行でき、活動の成果も出て目標値にも近づきました。こうして結果が出ているため今後の活動にも自信ができました。これからも無駄な部分、改善余地がないか、など日頃から意識して活動したいと思います。



環境委員長
藤原 庸正
(横福山セコ 代表取締役)

使用済み自動車の適正処理

■自動車リサイクルを推進して循環型社会構築を目指します

全国で年間約400万台の使用済み自動車が廃車になっています。これを一台1トンの廃棄物で計算すると約400万トンで、国内の年間廃棄物量約7,000万トンのおよそ6%になり、廃車はリサイクルされないと、とりわけ大量な廃棄物として大きな社会問題になります。以前に自動車の不法投棄・不適正処理が社会問題化したこともあり、それを防止してフロン類・エアバッグ類の処理や、資源を回収する目的で法制化されたのが「自動車リサイクル法」(2005年施行)です。この法律により自動車の所有者・引

取事業者・メーカー・輸入業者の各々が廃車の適正処理と管理に責任を持つことになり、近年使用済み自動車の回収率は90%を超え、使用済み自動車を適正処理する私たち自動車リサイクル事業者の役割はますます重要になりました。自動車のリサイクルは最初に燃料(ガソリンなど)、エンジンオイルなどの油類、ラジエターの冷却水(LLC)、カーエアコンの冷媒ガスを抜き取り、エアバッグの展開処理後、解体され再生可能部品を取り外し、残った車両本体部分はプレスし塊にしてシュレッダーにかけます。

自動車は鉄・アルミなどの有用な金属が車両の約70%を占め、車両総重量の約95%は資源として再利用されています。

廃車の買取り「廃車王・くるマック」

■廃車とリサイクル部品の専門店 地域で身近な「くるマック店」

NGPは使用済み自動車をユーザーから直接買取りする「廃車王・くるマック店」を全国約150拠点で営業展開しています。不要になった使用済み自動車の買取り・引取りから廃車手続き・解体処理までの業務を「お客様第一」の一貫したサービス体制で、毎年全国で約1万台以上の使用済み自動車を引取っています。廃車することに際してはリサイクル事業の社会的・環境的な業務をユーザーに理解していただくことと、自動車リサイクル法・廃車の適正処理などの説明をすることが重要になりました。使用済み自動車は多様な車両(事故車・走行不良車・水没車・低年式車)を有用な資源として回収し、一部は

良質な自動車リサイクル部品に再生され補修市場に供給されています。

NGPは「廃車王・くるマック店」を廃車引取りの全国窓口として、また良質なリサイクル部品の生産に欠かせない仕組みとして業務拡大への取組みを進めています。さらに自動車リサイクル部品の利用相談、部品探し(NGP全国部品在庫情報ネットワークの検索)、部品販売、修理工場の紹介などのサービスを提供し、地域に共生する利便性の高い店舗を目指して自動車リサイクル部品の啓蒙・販売促進の社会ニーズに応えていきます。



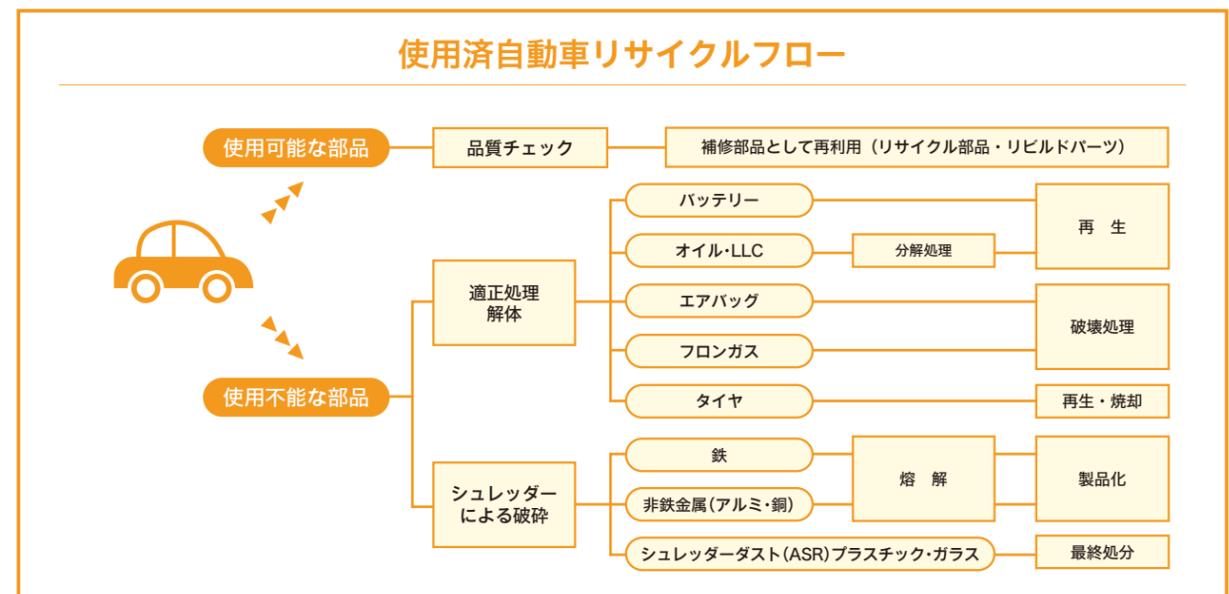
自動車リサイクル法 自動車リサイクル法は使用済みの車両の積極的なリサイクル、適正処理を行うために、車両の所有者や自動車メーカーなどの役割を定めた法律で、2005年1月1日に施行されました。

それぞれの役割は?	リサイクル法の対象となる3品目	それ以外の廃棄物の回収
<p>クルマの所有者 リサイクル料金を支払い、使用済み自動車を引取事業者へ引き渡す</p> <p>引取事業者 所有者からクルマを引き取り、フロン類回収業者、解体事業者に引き渡す ●フロン類回収事業者 ●解体事業者 ●破碎事業者 各事業者は、適正に回収・処理する</p> <p>自動車メーカー・輸入業者 自社製品のフロン類、エアバッグ類、ASRを引き取り、リサイクルする</p>	<p>フロンガス カーエアコンの冷媒として使われているフロン類は大気へ放出すると、オゾン層の破壊や地球温暖化の要因になるため、適正な処理(破壊)をする必要があります。また、回収処理する事が自動車リサイクル法では義務づけられています。</p> <p>エアバッグ エアバッグ類はガス発生剤を使用しており爆発性があるため、使用済み自動車のリサイクルを適正かつ確実に行うため、解体業者は使用済み自動車を引き取ったときは、「エアバッグ類」を適正に処理する必要があります。また、回収、及び破壊処理する事が自動車リサイクル法では義務づけられています。</p>	<p>廃オイル・LLC 土壌汚染・水質汚濁の原因である廃オイル・LLC等は丁寧に回収しなければなりません。また、浄化槽設備を充実させ、工場敷地外への流出防止に努め、土壌汚染・水質汚濁の影響調査を実施するように指導しています。回収後は、適正引取業者に処理委託をおこない、引取業者証明書によってその状況を把握しています。</p>
<p>●リサイクル法で適正処理された台数</p>	<p>シュレッダーダスト 車は、鉄、アルミ等の金属が多く使われているため総重量の80%がリサイクルされますが、残り20%は解体、破碎後に発生するゴミとなります。このゴミは、自動車メーカー等が指定する最終処分場にて適正に処理・再利用されています。</p>	<p>使用済み自動車 事故による全損車両やリースアップ車両を積載車両にて引取りします。引取・処理には自動車リサイクル法の引取業者、フロン類回収業者、解体業者、破碎業者の登録・許可が必要です。当組合では、使用済み車両適正処理を実施する全国ネットワークとして、電子マネーフェスト(移動報告)による管理を徹底しています。</p>

「廃車王・くるマック」のご案内

**不要なクルマの安心買い取り
リサイクル部品の販売**
(在庫150万点から検索サービス)

- 廃車無料見積** 使用済み自動車の買い取り価格・リサイクル費用などの提示
- 廃車引取り** こちらからお引取りに伺います(廃車手続き書類作成)
- 適正処理・再資源化** 組合員工場での適正処理と生産(検査・登録・販売)



自動車リサイクル部品の生産

■高度なりサイクル技術によって 良品の生産率をアップします

良質なりサイクル部品を安価にお届けするために、NGPはたゆみない努力と探究心で部品生産を展開しています。自動車業界はハイブリッドカーの普及、電気自動車の登場など大きな変化を遂げつつあります。自動車の進歩から自動車部品も複数の素材が複雑な構造の中に使用され、部品の取扱い、異物の除去、資源の分けなどリサイクル率を左右する専門性の高い技術が必要になっています。そのためNGPはリサイクル技術向上に役立つ部品情報の「共有情報の電子化」を本年スタートさせ、自動車

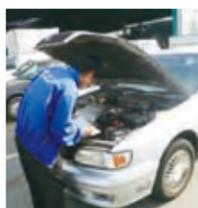
リサイクル部品の生産に必要な部品情報を、NGP組合員ネットワークシステム（NGPシステム）に蓄積し、個別車種・個別部品の取扱いにも対応する情報を全組合員に開示することになりました。これにより部品クレームも一元管理され、製品の安全性・信頼性を大きく高めることになりました。またこのシステムは組合員企業の熟練技術者の暗熟知やノウハウを吸収し、データベースに蓄積してNGP全体のリサイクル技術のレベルアップが図れると考えています。さらにNGPは安全で効率的な部品回収に向け、メーカー・業界の協力を得て、組合員向け生産研修会・ハイブリッドカーセミナーを毎年定期的に行い、さらなる技術革新を図っています。

NGP自動車リサイクル部品生産工程



1 引取

NGP組合員は、全社がリサイクル法の許可を取得した企業ですので安心してお任せください。速やかに車両を引取いたします。



2 入庫・検査

入庫された車両はすべてコンピュータに入力されます。このコンピュータネットワークが全国を結んでいる「NGPシステム」です。すべての情報はこのNGPシステムに登録されています。



3 生産

フロン(R12・R134)、各オイル、LLC等を適正に回収した後、1点でも多く使用可能な部品を取り出します。その後スチーム洗浄・検査し、1台から平均23点の部品がリサイクルされます。特に近年はレアメタルなどの稀少金属の回収が注視されています。我が国にとっての課題である稀少金属のリサイクルの一翼を担う大きな役割になります。



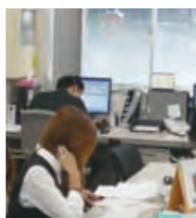
4 美化・品質チェック

取り外した部品は1点1点厳正な検査を行います。NGPの商品化基準に合った物のみが商品として生産され、また機能部品は作動チェック・テスター機器等を使用して、より高度な品質を生産しています。これらすべての部品には、信頼の証である「NGPギャランティー・シール」が貼付されます。



5 登録・在庫管理

検査基準に合格した商品が倉庫の棚に納められます。NGPシステムには、チェックした商品の状態を写真付きで細部まで登録し、いつでもスピーディに出荷できるように管理・保管されています。



6 受注・梱包・発送

ご注文時にはNGPシステムを活用し、全国約150万点の在庫をリアルタイムで即座に検索。国産車・輸入車を問わずあらゆる部品に対応します。丁寧に梱包されたリサイクル部品はご注文の翌日には納品されます。

(一部、発送により翌日お届けできない場合があります)

自動車リサイクル部品の販売

■「もっと多くのユーザーに」 利用促進活動を継続していきます

自動車リサイクル部品は社会的意義から自動車リサイクル法施行後も大きく注目され、また「グリーン購入法」の対象製品として行政の後押しにも支えられ市場での影響力も高まりました。リサイクル部品の低価格性から修理費用をなるべく安く抑えたいというニーズの広がりもあって、リサイクル部品を積極的に活用する自動車修理工場も増加しました。また自動車メーカーも補修部品として自らリサイクル部品の積極的利用を拡大しています。

しかしながら日本国内での自動車リサイクル部品市場は現在約1960億円（リユース部品1090億円・リビルト部品870億円/2008年）規模にとどまっています。リサイクル部品の普及は海外と比較してもいまだ低水準で、欧米の利用率30~40%に対して日本はわずか5%程度といわれ、まだまだ活用されていないのが現状です。車と環境問題ではすでに法整備、企業の努力も進展し、循環型社会実現も急が

れ、NGPは以前にも増して自動車リサイクル部品の信頼と、ユーザーの積極活用を図るための「お客様満足度」をさらに高め、環境配慮型カーライフを提案する啓蒙PRを進めなければなりません。

※「グリーン購入法」環境にやさしい製品を選定して、国の調達に関しては、その製品を優先的に選択し、地方自治体は努力義務、事業者・国民にも一般的な責務があると定めた法律（2001年4月施行）



リサイクル部品活用推進店

ユーザーとの窓口になる全国1万4千社の優良修理工場に「リサイクル部品活用推進店証」を発行して自動車リサイクル部品の啓蒙と利用の推進に努めています。



徹底した品質管理「ギャランティー・シール」

安心の品質とお求めやすい価格。自動車リサイクル部品はユーザーにとって大きな魅力を持っています。NGPリサイクル部品には、「ギャランティー・シール」が貼付されていますが、これはNGP検査基準を通過した製品の信頼の証明です。従来の中古部品のイメージを一新しました。

主な自動車リサイクル部品(リユース部品)のCO₂削減量

外装内装部品	エンジン部品	電装部品	駆動系
フロントバンパーAssy 25.3kg	エンジンAss 416.9kg	クーラーコンプレッサー 27.6kg	オートマチックトランスミッション(AT) 340.4kg
フロントウィンドシールドガラス 28.1kg	ターボチャージャー 19.6kg	バッテリー 32.5kg	ステアリングラック&ピニオン 17.7kg
右ヘッドライト/ランプ 8.3kg	パワステポンプ 10.7kg		右フロントドライブシャフト 22.6kg
右フロントフェンダーパネル 8.2kg	ラジェター 23.0kg		右フロントナックルAssy 50.8kg
右フロントドアAssy 91.7kg	スターターモーター/セルモーター 9.8kg		右フロントストラットAssy 81.7kg
トランクリッド 35.2kg	オルタネーター/ダイナモ 16.3kg		
	マフラーAssy/マフラーキット 49.7kg		

CO₂削減量とは……車を修理する際、新品部品で修理する場合とリサイクル部品で修理する場合のCO₂排出量の差を数値化したものです。
※上記CO₂削減量は日本自動車リサイクル部品団体協議会グリーンポイントクラブと早稲田大学環境総合研究センターの産学共同研究による数値です。
(Ver.1105) 国産車(1999年式、1500cc・4ドアセダンタイプの場合)の数値を参考にしています。

自動車リサイクル部品の保証基準・品質基準

■リサイクル部品の保証基準を業界12団体で共通化

- 長年の懸案だった自動車リサイクル部品の「保証基準」「品質基準」の共通化が実現しました。
- 整備事業者の皆様にとって、これまで以上にリサイクル部品をお客様に勧めることができる環境が整いました。
- リサイクル部品の品質保証があることを積極的にユーザーに訴えてください。お客様も高い関心を示すと思われます。

リサイクル部品の保証基準、品質基準の共通化は、私たちNGPが加盟する日本自動車リサイクル部品協議会の傘下12団体で実現したもので、5月15日から正式にスタートしました。

保証基準としてはエンジン・ミッションの主要機能部品、準主要機能部品、その他の部品、外装・内装部品の4つのカテゴリーに分け、代品交換や返金に応じる期間、走行距離を定めるとともに、主要機能部品、準主要機能部品について整備事業者の皆様には組み換え工賃の保証をすることを明示しました。また品質基準としてそれぞれの部品ごとにチェックするポイントを共通化しました。

しかし共通化した基準は業界の最低基準です。例えばNGPはエンジン・ミッションについて「6ヶ月1万km」というさらに高い保証を従来から設けていますが、これらの基準には変わりありません。詳しいことはNGPのフロント、営業マンに問い合わせてください。

NGPとしてはこれまでもリサイクル部品の品質確保に努力し、保証もしてきました。その意味で大きな変化はないのですが、業界で共通化できたことが、大きなインパクトになるようとしています。

まず損害保険協会が保証基準、品質基準の共通化に大き

な関心を示しています。損保各社は今年一斉に保険料の改定を始めました。保険の顧客が減少して収支のバランスが取れなくなったことが原因で、リサイクル部品を使うことで支払う保険料を抑制できないかと考えているようです。利用拡大を模索している時にタイミング良く基準共通化が図れたことになり、今後は損保協会と話し合い、リサイクル部品利用拡大の道を探ることになると思われます。

一方あるシステム会社では、整備事業の経営支援システムでも、事故車修理で入庫したお客様に新品部品とリサイクル部品との両方の見積もりを提示するシステムが登場しようとしています。従来から比較見積もりは行われていましたが、最新システムはタブレット型パソコンを使ってリアルタイムでお客様と見積もり、商談をするシステムになっています。これなども保証基準、品質基準が共通化されることを前提に開発がすすめられたと思われます。リアルタイムの在庫データは、ほとんどの部品が写真付きで登録されています。商品を確認して購入し、しかも保証がはっきりしているとあれば、節約志向を強めているお客さまは「リサイクル部品で修理したい」と要望されると思います。

それでもまだ多くのユーザーはリサイクル部品が存在していることを知らないようですし、リユース市場に回った純正部品であるという認識も持っていないことがあります。今後も保証と品質基準が共通化してあることをお客様に説明し、リサイクル部品の利用促進を進めることを整備事業者の皆様をお願いしたいと思っています。



今年度は中古車、使用済自動車ともに発生量が減少し、リサイクル部品の価格が高値の水準にあります。NGPは厳しい市場環境の中で懸命に努力をし

て今後もより良いリサイクル部品の提供に努めていきたいと考えています。

リサイクル部品業界統一保証基準抜粋

エンジン廻り部品		ボディ部品	
 <p>エンジン 保証期間 6ヶ月または5,000km 走行まで ※NGP部品は10,000km 走行まで 保証内容 代品交換と工賃負担</p>	 <p>キャブレター 保証期間 1ヶ月または1,000km 走行まで ※NGP部品は3ヶ月または3,000km まで 保証内容 代品交換と工賃負担</p>	 <p>ドア 保証内容 現品確認期間 1週間 まで 代品交換または返金(返品)の受付</p>	
 <p>ターボチャージャー 保証期間 3ヶ月または3,000km 走行まで 保証内容 代品交換と工賃負担</p>	 <p>噴射ポンプ 保証期間 3ヶ月または3,000km 走行まで 保証内容 代品交換と工賃負担</p>	 <p>バンパー 保証内容 現品確認期間 1週間 まで 代品交換と工賃負担</p>	
 <p>オルタネーター 保証期間 3ヶ月または3,000km 走行まで 保証内容 代品交換と工賃負担</p>	駆動系部品		
 <p>スロットルボディ 保証期間 3ヶ月または3,000km 走行まで 保証内容 代品交換と工賃負担</p>	 <p>トランスミッション 保証期間 6ヶ月または5,000km 走行まで ※NGP部品は10,000km 走行まで 保証内容 代品交換と工賃負担</p>	 <p>フロントフェンダー 保証内容 現品確認期間 1週間 まで 代品交換または返金(返品)の受付</p>	
 <p>スターター/セルモーター 保証期間 3ヶ月または3,000km 走行まで 保証内容 代品交換と工賃負担</p>	 <p>パワステポンプ 保証期間 3ヶ月または3,000km 走行まで 保証内容 代品交換と工賃負担</p>	 <p>トランクリッド 保証内容 現品確認期間 1週間 まで 代品交換または返金(返品)の受付</p>	
電装系部品		 <p>フロントガラス 保証内容 現品確認期間 1週間 まで 代品交換または返金(返品)の受付</p>	
 <p>クーラーコンプレッサー 保証期間 3ヶ月または3,000km 走行まで 保証内容 代品交換と工賃負担</p>			

※「NGP保証基準」に則ります

NGPリビルト部品延長保証制度

NGPはリビルト部品メーカーの定める保証期間にプラスして3ヶ月または6ヶ月の延長保証（代品保証）を提供しています。
※リビルト部品とは使用済部品を分解して、磨耗・劣化した部分を交換して、再度組み立てて品質検査を行い商品化した製品です。



延長保証シール

よく利用されている自動車リサイクル部品

外装部品	ボンネット・ドア・フェンダー・バンパー・ランプ・ドアミラー・リアゲート・トランクリッド・ガラス
機能部品	エンジン・トランスミッション(AT/MT)・トルクコンバータ・ターボチャージャー・パワステポンプ・ステアリングギアボックス・ラック&ピニオン・ドライブシャフト・噴射ポンプ・ラジエター
電装部品	スターター・オルタネーター・クーラーコンプレッサー・クーラーコンデンサー

お客様とともに

■お客様第一の安心品質

自動車部品にはお客様の安全が託され、万全な品質を保証する責任があります。NGPは発足以来、お客様を最優先する「お客様第一主義」に徹することで安心な商品を提供してきました。これからもお客様満足度を高めるために、お客様の視点に立ち、より良い商品を提供し続けることが使命であると考えます。

■お客様の声の反映

NGPは日常の業務や電話・メールなどの情報を通じて寄せられた商品・サービスに関するご相談・ご意見・ご要望に迅速・丁寧な対応を心がけています。お客様の声はNGPへの期待であり、貴重なご指摘として認識し、真摯なコミュニケーションを図り、現

場にフィードバックして、品質改善・販売対応でお客様の満足度を高めるために役立てています。特にお客様のクレームは本部の指導事項であり、原因究明の調査を着実に実行し、重要なものは本部で協議して業務改善の指導による再発防止に取り組んでいます。NGPはお客様の満足度を高めるため、得られたお客様のご意見を業務に十分反映するとともに、製品やサービスの信頼につながる改善につなげていきたいと考えています。

- お客様への責任
- お客様満足への活動基本

1. 安全で信頼される製品とサービスをご提供します
2. お客様からのご要望、ご相談には誠実・迅速・的確に対応します
3. お客様の声からお客様にご満足いただける製品・サービスの開発、改善に努力します
4. お客様の個人情報を保護します

VOICE ● 組合員の声

さらに一步先ゆく革新を!

業界の「リーダーたること」を信条として常に高品質を追い続けてきたNGPが、更に一步先をめざして走り続けます。

徹底した品質管理のもと、こだわり続けた「NGPブランド」は25周年を迎えた今も進化し続け、築き上げた伝統は断固保持し頑なに守り続けてきました。先ごろリサイクル部品販売12団体で品質・保証基準が統一されましたが、NGPでは既にこれ以上のアイテム数とこれを上回る保証内容を実現しております。例えばエンジン・ミッションの保証基準「出荷日より6カ月、走行1万km以内」という独自の保証内容を買っています。また品質の厳格チェックのためのツールを組合員に活発に推奨しております。

最近特に需要が増えている「O₂センサー」の診断・測定器。コモンレール式エンジン等全てのエンジンに対応する「エンジン圧縮値測定器」を斡旋しました。また品質チェックの鍵を握る「徹底した美化作業」に欠かせない革命的な洗浄ツールも推奨し一番肝心の生産業務の支援に注力致しました。

今後はスキャンツールの検証に取り組み、我々に適したツールや使用方法を模索したいと考えています。

さらにNGP独自で構築している「共有情報システム」は順調に推移しており現在各メンバーから寄せられた情報数は400件超で検証済みフィードバック数は200件を超えています。



商品管理委員長
上田 秀徳
衛プロス 代表取締役

同システムは部品生産の現場では対象車から部品を取り外す際の注意点や品質チェック時の要点の確認用として、またフロント業務では販売時に当該部品の共有情報を画面表示することで取り扱いの注意喚起ができるほか、リコール情報、部品の共通化、互換性も網羅しています。これにより全体のクレーム発生率の減少と、納品率の更なる向上に繋がりたいと考えております。

「お客様第一」の努力

お客様ニーズは多様で常に変化します。その中で、ある商品が選ばれ続ける商品選択の基準は、詰まるところ「信頼」であると思います。「お客様への優れた価値の提供・お客様第一」の観点から厳正な品質管理を続け、お客様一人ひとりの声に耳を傾け、適切な対応をすばやく行なうことによってお客様との信頼は深まると考えています。私は会社の社会的責任(CSR)は従業員・お客様・社会から真に信頼される企業を目標に、たゆまぬ努力を続けることだと思っています。チャレンジ精神をもって社業発展をめざします。



総務広報委員長
杉之間 大和
衛プロス 代表取締役

■NGPリサイクル部品「CO₂削減効果の見える化」スタート

NGPはこれまでリサイクル部品のCO₂削減効果※の平均値をPRしてきましたが、このたび「見える化」への取り組みからシステムを改善し、本年7月より業界に先駆けて部品一点一点のCO₂削減効果をNGPシステムで提供することになりました。これによりNGPの発行するすべての見積書・納品書・請求書等には、部品ごとにCO₂削減効果が表記され、ユーザーのリサイクル部品利用による環境貢献度が数値によって確認できることとなります。今後は広く省エネを推進するリサイクル部品の活用を盛り上げて、CO₂削減のシンボルとしてご利用いただければと考えています。

※CO₂の削減効果とは、車を修理する際、新品部品で修理する場合とリサイクル部品で修理する場合のCO₂排出量の差を数値化したものです。一般社団法人日本自動車リサイクル部品協議会と早稲田大学環境総合研究センターとの産学共同研究による数値です。



ポスターを作成して本年7月に配布しました

■web「NGPエコひろば」スタート

NGPはリサイクル部品で修理を希望するユーザーに「エコ整備」に熱心な整備事業者を紹介するwebサイト「NGPエコひろば」を昨年10月1日に運用を開始しました。ユーザーはモニター画面から地図または都道府県から検索して、お近くにある優良整備工場を探し出し車検整備・事故車修理などの見積りが出来る仕組みです。すでに約1,100社の整備事業者が参加して頂き、ユーザーの関心も高く、問い合わせも頻繁で積極的な展開が始まっています。「NGPエコひろば」は同時に「エコ整備」を求めるユーザー向けに、自動車リサイクルとリサイクル部品の環境貢献、リサイクル部品の安全性と低廉性などの啓蒙PRを図っています。今後もユーザーにとって利便性の高い内容とアクセスを加速する広報活動を推進して、好感度の高いHPに成長させたいと考えています。



「NGPエコひろば」ユーザーの声 (一部抜粋)

- センターマフラーに穴が空いたので交換したい。新品部品とリサイクル部品の見積りをください。 Uさん
- 車検満了日が3月10日です。7日または8日納車で大丈夫ですか。 Tさん
- スタータを交換したいのですが、リサイクル部品での見積りをお願いします。 Aさん
- 部品を持込みで取り付けの費用の見積りをお願いしたい。 Yさん
- 年式の古い車の車検です。部品交換が必要ならリサイクルでお願いします。見積りしていただけますか。 Sさん
- クラッチ交換 (社外品でもいいのですが) 安いもので見積りしてください。 Mさん
- パワステが故障、複数のディーラーに相談したが診断結果も異なり、料金もマチマチです。リサイクル部品なら安いかと思見積りをお願いします。 Tさん

お客様アンケート調査

全国中小企業団体中央会の活路開拓補助事業による リサイクル部品に対する意識・利用に関するアンケート調査 顧客向け・リターナブル梱包材に関するアンケート調査 ご協力ありがとうございました

NGPは昨年11月に全国中小企業団体中央会の補助事業「平成22年度中小企業組合等活路開拓事業」の適用を受け「リターナブル梱包材の高度化および普及促進のための調査研究・ビジョン策定事業」を推進するアンケート調査を実施しました。おかげさまで「リサイクル部品に対する意識・利用に関するアンケート」（全国の整備事業者約5,000社を対象）は25.6%の高い回収率になり業務改善・サービス向上に向けて大変貴重なご意見をいただきました。調査結果から①リサイクル部品の取引回数が多いのはNGP組合員などの中古部品商で全体の約7割弱に達していること②仕入れで重視しているのは「商品が安心」「価格と品質のバランス」などが

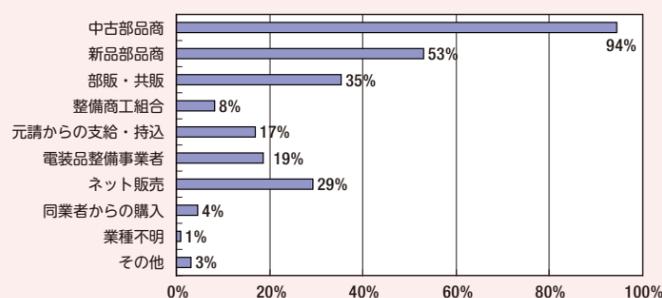
改めて分かりました。NGPリサイクル部品については高品質という評価が充分認識されていることも判明しました。また「顧客向け・リターナブル梱包材に関するアンケート」（NGP組合員顧客の整備事業者約500社対象）も33.8%の高回収率となり、リターナブル梱包材は従来の段ボール梱包と比較して「輸送事故が少ない」「段ボール廃棄の面倒がない」「環境にいい」などの高い評価をいただきました。今後はアンケート結果を踏まえ、リサイクル部品の品質向上を図り、ファーストコールをいただける存在感、信頼を得られるよう努力してまいります。以下にアンケート調査結果の概要を掲載します。

調査結果の概要

1. 整備事業者リサイクル部品に対する意識・利用に関するアンケート調査

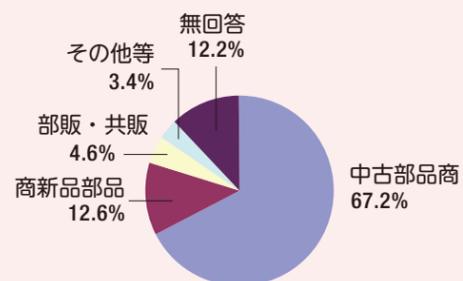
(1) 中古部品について

①中古部品の調達先

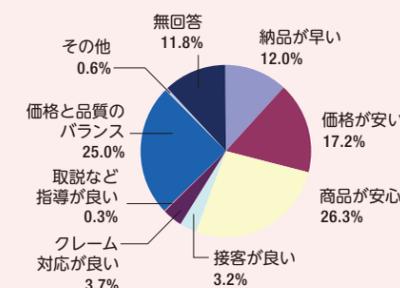
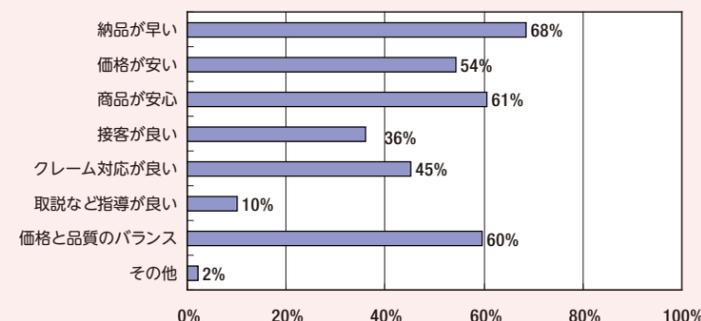


- 最も取引回数が多い先は、中古部品商67%、無回答を除く中古部品商以外が21%と中古部品商に優位性がある。
- 調達したことがある先では、中古部品商94%に対して、新品部品商53%、部販・共販35%、ネット販売29%となっており、中古部品商以外からも結構調達している。

最も中古部品の調達(取引)回数が多い事業者

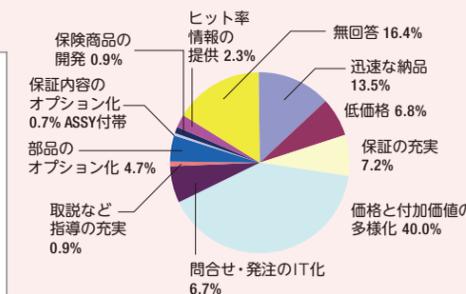
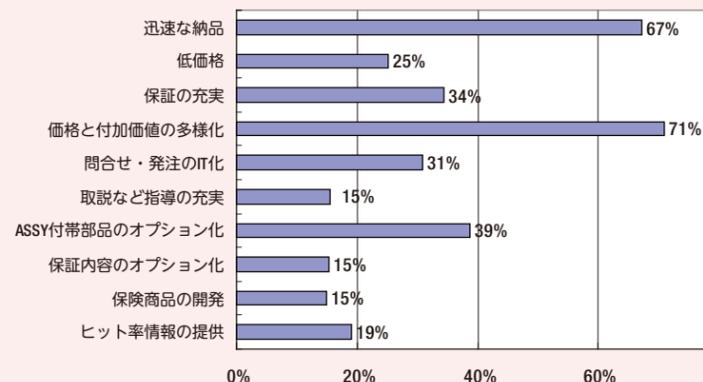


②中古部品を調達する際に重視していること



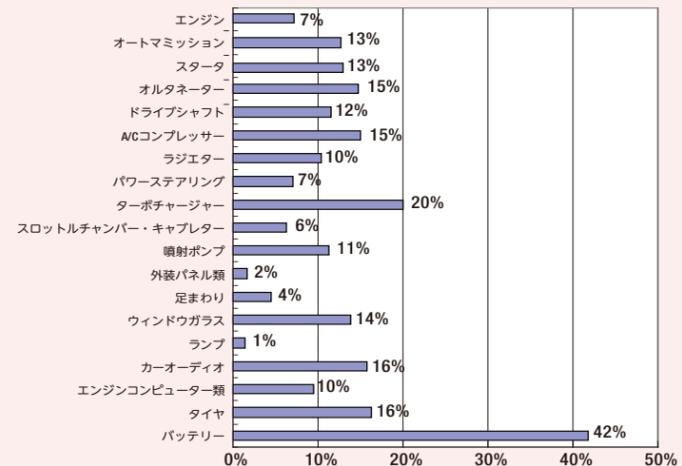
- 最も重視することは「商品が安心である26%」「価格と品質のバランス25%」であるが、重視することを複数回答してもらうと、「納品が早い68%」が最も多い回答となっている。
- 「価格が安い」は54%が回答しているが4番目であるものの、アンケートの各所にある自由回答欄には「安くしてほしい」という主旨の記述が目立つ。
- その次に、「クレーム対応が良い45%」、「接客が良い36%」がきている。

③中古部品への今後の期待



- 期待することの複数回答では、「価格と付加価値の多様化71%」に次いで、「迅速な納品67%」、「ASSY付帯部品のオプション化39%」となっている。
- 最も期待することは「価格と付加価値の多様化40%」である。

④使用したくない中古部品



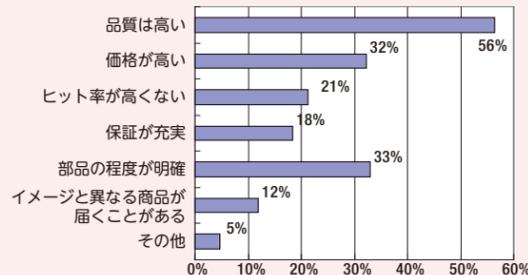
- バッテリーは42%と少なくない事業者が、使いたくないと回答しているが、それ以外の部品を使用したくないという回答は多くても20%である。

お客様アンケート調査

従業員・調達取引先とともに・地域社会への責任

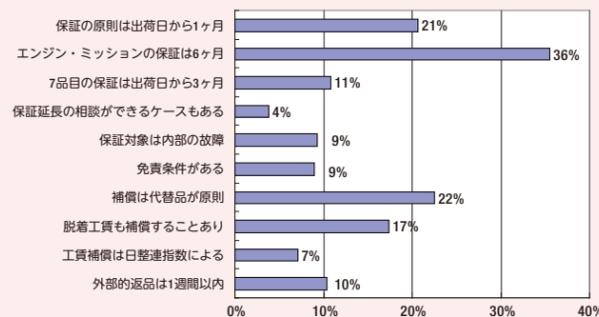
(2) リサイクル部品販売事業者に対する認識

①NGPが供給する部品に対する認識



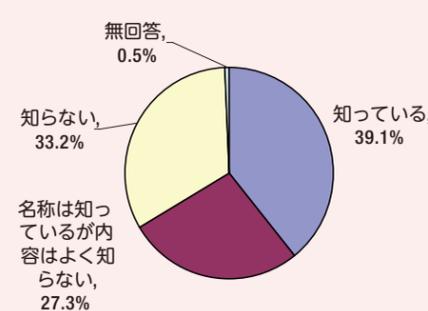
○「品質が高い56%」がもっとも高い認識であるが、定着しているNGPの評価と言うほど高い数値にはなっていない。
 ○「部品の程度が明確33%」は、NGPの信条であるはずだが、高い数値ではない。
 ○「価格が高い32%」は高くはない数字であり、品質に対する値ごろ感を出せば価格への不満は高くはないことを示唆していると考えられる。
 ○「ヒット率が高くない21%」も高くはない数字であり、リサイクル部品の流通事情をご理解いただいているものと推察される。

②NGPが実施している保証について、知っているもの



○エンジン・ミッションの保証は出荷日から6ヶ月であることの認知度が36%で最も高いが、全体として、認知度は高いとは言えない。

③NGPが「リターナブル梱包材」の普及に取り組んでいることへの認識度

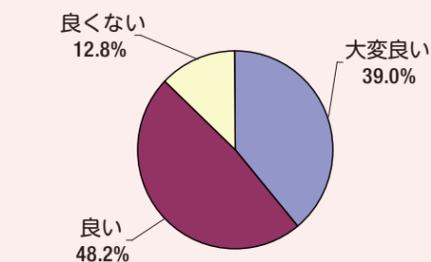


○知っている事業者が39%、名称を知っているまで含めると66%の事業者が知っていることになる。

2. 顧客向け:リターナブル梱包材に関するアンケート調査

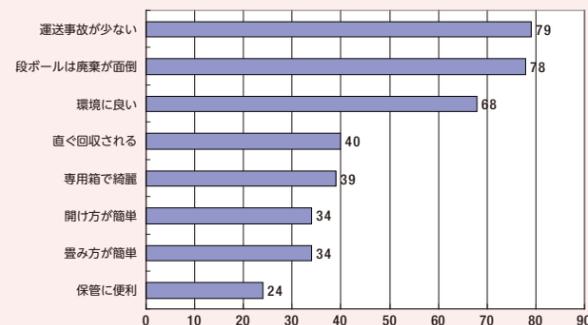
(1) ドア・フェンダー用リターナブル梱包材への評価

①段ボールに比べて、ドア用リターナブル梱包材をどう思う



○“大変良い 39.0%”、“良い 48.2%”を合わせると、87.2%の顧客はリターナブル梱包材の評価は高い。

②ドア用リターナブル梱包材はどのような点が良いと思うか(複数回答可)



○多かった良い点は“運送事故が少ない 79件/133件、59.4%”、“段ボールは廃棄が面倒である 78件、58.6%”、“環境に良い 68件、51.1%”であった。

従業員とともに

■明るくやりがいのある職場

NGPは従業員が持てる力を十分に発揮できる職場を目指し、透明で公正な評価制度を整え、従業員の意欲を尊重した人事制度を適用しています。年齢・性別・身体的特徴・国籍の違いなどを「多様性」として認め、また性別や雇用形態などに関わりなく、存分に実力発揮できる環境づくりを進めます。

●人事の基本指針

1. 適材適所・人材育成を旨とした人事配置、ローテーションの実施をします
2. 透明・公正かつ実力主義による評価、処遇の実現をします
3. 企業実力に見合った労働条件の設定と社会要請に対する迅速な制度的対応をします
4. 能力開発のための教育機会の積極的提供をします

調達取引先とともに

■公正で透明性の高い購買体制

NGPは取引先とのパートナーシップに基づく公正・公平な購買取引を推進し、取引先と相互利益関係の実現を目指しています。また調達品については周辺環境への配慮や環境マネジメント体制を評価して、環境配慮製品の購入を優先しています。

●取引基本指針

1. 透明性 オープンで透明性のある取引をします
2. 公正 お取引先の選定は公正な評価に基づきます
3. 法令遵守 関連法規を遵守し、かつ法令の条項とその精神も尊重し、業務を遂行します
4. 環境保全 積極的に「グリーン購入」を進めます
5. 相互信頼 お取引先との対等なパートナーシップに基づく取引を通じ、信頼関係を築きます
6. 倫理 厳正な倫理観に基づくお取引と適切な関係を維持します

地域社会への責任

■地域との調和を大切にします

NGPはよき企業市民として法令を遵守して、行政や地域の方々との対話に努め、地域社会との調和を保つよう配慮しています。事業活動・環境保全などについて情報を開示して地域の方々の適切なコミュニケーションに努めて行きます。

●社会貢献活動基本

1. 安全な地域社会づくりのためのグループ・組合員参加型の社会貢献活動を推進します
2. 組合員のボランティア活動支援をします
3. 社会貢献活動において、NPO・NGO等と協力体制を整えます

「環境広場さっぽろ」に北海道支部が出席

7月29日から31日の3日間、札幌市白石区のアクセスサポロで開かれた環境総合イベント「環境広場さっぽろ2011」にNGP協同組合北海道支部(福田健志支部長)が出席しました。環境技術や環境保全の成果を伝え、互いに学び合うことを目的としたこのイベントは今回で14回目を数え、札幌市の夏のイベントとして定着しています。

今回は道内外から119企業・団体が新・省エネルギーや環境啓発など6つのゾーンに分かれて出展、この中でNGP北海道支部はリサイクルゾーンにブースを設け、リサイクル部品の有効性や廃車処理の流れをPRしました。主催者の発表によると、3日間トータルの来場者は3万3354人。夏休み期間で親子連れの姿が目立ちました。自動車関連ではトヨタ、ホンダ、天然ガス自動車北海道、グリーンディーゼル普及促進協議会、札幌地方自動車整備振興会などが出展しました。エコカー試乗会が行われ、来場者は最先端エコカーの走り確かめました。NGP北海道支部はリユース部品を展示するとともに、リターナブル梱包材によるCO₂排出抑制への取り組みを紹介しました。またパネルとともに廃車のプレス材を展示し、リアルな廃車処理の流れを解説しました。



NGPの事業活動におけるCO₂削減

■環境経営に関する方針

NGPにとって環境マネジメントは、事業の本質に関わる重要課題のひとつと認識しています。常にお客様の満足と安心を優先した業務を行い、持続的循環社会構築に向け、事業活動のあらゆる場面において環境保全の意識を高め、以下の基本方針に取り組んでいきます。

- ①法令遵守 ●環境法規制およびその他の要求事項を遵守します
- ②省エネルギー・省資源 ●事業活動で消費するエネルギー・水等の使用量を削減し、省エネルギーを推進します●生産活動で使用する梱包材等の省資源・効率化を推進します●事業活動で使用する紙等消耗品の使用量を削減します
- ③環境負荷・汚染の低減 ●事業活動で発生する廃棄物のリサイクルを推進します●事務用品のグリーン購入を推進します

■ISO14001 認証取得の推進

ISO14001 認証取得会社一覧				2010年10月1日現在	
取得会社名	登録日	取得会社名	登録日	取得会社名	登録日
株式会社	2003年 1月24日	株式会社青木	2003年 1月20日	エコテクノ(株)	2004年 1月28日
株式会社アシスト・フクダ	2003年 1月15日	太田部品(株)	2003年 1月29日	株式会社エビス	2003年 9月12日
株式会社マテックELV石狩	2001年 6月 5日	南オートパーツ片岡	2004年12月24日	ウエイクパーツ	2003年 8月29日
株式会社エルバ北海道	2005年 3月29日	株式会社大橋商店	2003年 1月27日	株式会社山陰エコ・リサイクル	2005年 2月10日
鋼路オートリサイクル(株)	2006年12月27日	南安全自工	2003年 3月28日	南みうら	2003年 2月28日
南むつパーツ	2004年12月17日	オレンジパーツ平成	2006年 3月16日	南國寅商店	2004年 1月 9日
株式会社福島パーツ	2004年12月24日	南アンドンカーパーツ	2006年 3月14日	南西川商会	2004年10月22日
株式会社永田プロダクツ	2004年 1月14日	メタルリサイクル(株)千葉パーツセンター	2008年 9月18日	島根オートリサイクルセンター	2006年 8月 8日
株式会社ナブコフクシマ	2003年 3月18日	南ツクダ自動車	2004年12月17日	株式会社パーツライン	2003年 1月26日
株式会社エコブリッジ	2004年12月20日	株式会社ハセ川自動車	2003年 1月21日	株式会社オートパーツ伊地知	2001年 6月13日
株式会社アイエス総合	2004年10月25日	津田鋼業(株)	2003年 1月23日	株式会社グッパ-福岡	2003年 3月12日
株式会社青南商事盛岡支店アルトレック矢巾	2002年 2月27日	南山一商店	2003年 1月22日	南ユービー宮崎	2003年 3月28日
株式会社青南商事 弘前支店 アルトレック青森	2002年 2月27日	南堀川自動車商会	2003年10月22日	株式会社アル・トーヨー	2004年11月25日
株式会社青南商事 酒田支店 アルトレック酒田	2002年 2月27日	南メタルオート北陸	2005年 3月24日	オートバルス ニホウ	2004年12月 9日
株式会社青南商事 八戸支店 アルトレック八戸	2002年 2月27日	南カーパーツコンドウ	2010年 6月24日	株式会社エイ・ティ・エム	2003年 3月18日
株式会社青南商事 仙台支店 アルトレック塩竈	2002年 2月27日	株式会社カンザキ	2003年 3月20日	WARC西日本オートリサイクル(株)	2003年 1月30日
株式会社栃木パーツ	2004年 6月 7日	株式会社多田自動車商会	2003年 3月18日	南オートリサイクルナカシマ福岡	2004年 9月24日
株式会社共伸商会	2003年12月11日	株式会社ラ・テール	2003年 3月28日	南タバタ商会	2004年11月25日
南黒崎部品	2003年 1月21日	株式会社堀尾自動車部品	2003年 2月25日		
株式会社茨城オートパーツセンター	2003年 2月21日	株式会社草山パーツ	2003年 4月25日		
南田崎商店	2003年12月 3日	株式会社桜井	2003年 4月25日	●システム賛助会員	
株式会社拓殖商会	2003年12月15日	株式会社多田自動車商会大阪営業所	2003年 3月18日	丸利伊丹車輛(株)北広島支店	2004年 6月21日
南しのぶや	2003年 2月28日	株式会社福山セコ	2010年 5月 7日	株式会社オートパーツ三伸	2005年 3月22日
株式会社ユーパーツ	2002年 7月26日	株式会社クレストパーツ(株)中村解体)	2003年 2月26日	石上車輛(株)恵庭店	2004年 5月19日
カーズチール(株)	2004年 8月 4日	南山陰UP販売	2007年 8月23日	株式会社ライラック車輛	2005年 3月22日
株式会社3R	2002年 7月10日	株式会社桃太郎部品	2003年 2月20日	株式会社轟商会	2003年 1月24日
株式会社CRS埼玉	2005年 5月27日	株式会社オートパーツ幸城	2003年 3月23日	九州メタル産業(株)鳥栖リサイクルセンター	2003年12月24日
メタルリサイクル(株)パーツセンター	2008年 9月18日	南オートパーツ新居浜	2003年 2月27日		
エコリサイクル共伸生産工場	2003年12月11日	南崎車部品(株)	2003年 2月28日		
南しのぶや みどり工房	2003年 2月28日	南東和	2003年 7月23日		
				取得会社合計数(含登録拠点)	84拠点

④地域との共生 ●環境保全活動に積極的に参加して地域社会への貢献と調和に努めます

NGPは環境関連規制を遵守する管理の徹底に努め、環境マネジメントの適切な運用を確認するため省エネルギー推進活動報告による内部監査を定期的実施しています。

■事業活動における投入資源・排出環境負荷

NGPは使用する資源・エネルギーの投入量 (IN PUT) と排出量 (OUT PUT) を定量的に収集・分析することで、総合的で効率的な環境負荷低減に活用しています。電力がエネルギー消費に大きな割合を占めることから、電力使用量の削減に重点をおいて取り組みを進めています。また内部監査により「省エネルギー活動に是正処置が必要である」「記録の記入に不備がある」「環境マネジメントの理解に誤解がある」などの不備があれば、それぞれ適切に改善を行います。

環境エコバランスデータ(2010年度)

2010年9月~2011年8月

■IN PUT

資源・エネルギー投入量

- 原材料(使用済自動車) 60万台(前年比77%)
- 電力 22,778,922kw(116%)
- L P G 52,886kℓ(98%)
- 都市ガス 5,382m³
- ガソリン 480kℓ(105%)
- 灯油 418kℓ(105%)
- 軽油 6,713kℓ(115%)
- 重油 373kℓ(118%)
- 水 100,465m³(前年比105%)

※10年1月~12月消費量

■OUT PUT

環境負荷物質排出量

- 販売部品点数 243万点(前年比105%)
- CO₂削減量 79,588万kg(前年比96.3%)
- フロンガス 15万kg(前年比75.8%)
- 廃オイル 324万ℓ(77.2%)
- L L C 155万ℓ(74.8%)
- エアバック 133万個
- 廃タイヤ 215万本(73.4%)
- 廃バッテリー 6074万kg(74.2%)
- 使用済自動車 60万台(77%)

※10年9月~11年8月実績

※CO₂削減量の数値はリサイクル部品のみを対象としています。

2010年NGP組合員事業所エネルギー消費量

※2010年1月~12月

支部	電力(kwh)	水(m ³)	LPG(kg)	都市ガス(m ³)	ガソリン(kℓ)	灯油(kℓ)	軽油(kℓ)	重油(kℓ)
北海道	6,109,666	7,236	709	35	22	143	941	61
昨年度実績	4,399,963	7,021	563	29	28	99	287	3
東北	4,934,458	19,610	18,596	3,229	145	128	1,069	0
昨年度実績	3,966,092	15,683	13,595	8,356	89	108	829	0
北関東	4,970,192	21,775	8,201	1,427	67	32	961	110
昨年度実績	4,984,468	23,380	8,517	1,464	53	25	852	87
南関東	717,953	8,047	2,787	421	63	11	256	0
昨年度実績	748,404	8,873	2,909	2,546	58	12	237	0
北陸	858,567	5,002	440	0	9	29	662	14
昨年度実績	805,747	4,543	731	0	8	28	503	14
東海	999,968	9,644	4,045	0	60	16	567	6
昨年度実績	965,085	8,276	3,252	50	68	14	475	23
関西	850,840	6,254	3,812	249	36	11	604	43
昨年度実績	768,661	6,525	4,396	205	41	10	484	34
中四国	2,119,068	15,623	9,523	21	56	39	1,205	98
昨年度実績	1,927,436	15,096	9,279	26	60	35	1,049	111
九州	1,218,210	7,275	4,774	0	22	8	447	42
昨年度実績	1,059,842	6,628	3,033	202	28	6	407	44
合計	22,778,922	100,465	52,886	5,382	480	418	6,713	373
昨年度合計	19,625,698	96,023	46,274	12,878	434	337	5,123	316
CO ₂ 排出量(kg)	12,642,302	36,167	159,029	11,194	1,113,980	1,039,661	17,587,636	1,009,852
昨年度実績	10,892,262	34,568	139,147	26,785	1,006,488	838,783	13,422,776	857,040
CO ₂ 排出量合計	33,600t (プラス6,382t 約123%)							
昨年度合計	27,218t							

NGPの事業活動におけるCO₂削減

■バンパー配送にリターナブル梱包材の利用を拡大します

NGPはリターナブル梱包材の利用対象をバンパーにも拡大しました。バンパー用はPVC（ポリ塩化ビニール）製の袋状になった専用の梱包材で、青色の普通車用と緑色の軽・小型車用の2種類があります。

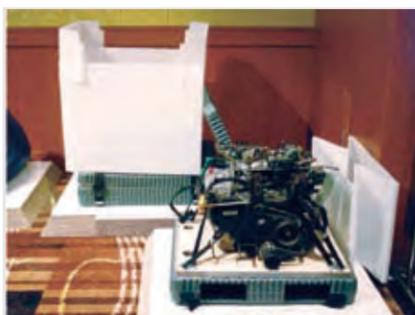
リターナブル梱包材の活用は使い捨てになるダンボールの梱包から、産業廃棄物の削減と自動車リサイクル部品の配送時のCO₂排出を減らすことを目的にNGPが自動車リサイクル部品業界の先頭を切って取り組み始めました。「中身も箱もECO主義!」とすることでリサイクル部品の環境価値を高めたいと考えたからです。

試算すると、最初に導入したドア・フェンダー用では100回利用することでダンボール使用時に比べて配送1回当たりのCO₂排出を4分の1ほど削減することができます。例えば普通車用バンパーを梱包する際に使用するダンボール量は5.1kgに達します。このためバンパー梱包をリターナブル梱包材に置き換えると、ドア・フェンダー用以上に大きなCO₂削減効果が見込めます。100回利用することで1回当たりのCO₂排出は1,061g、ワンウェイで利用するダンボールに対しておよそ10分の1にまで削減できる計算です。もちろんこの試算は回収時の物流に関わるCO₂排出も含まれています。梱包材の回収は当初日本通運の「ペリカン便」が行っていましたが、現在はペリカン便の業務を日本郵便が引き継ぎ、郵便局が行うようになっています。折りたたむと青い普通車用が70×60cm、緑色の軽・小型車用が50×45cmの大きさになります。

現在はエンジン用のリターナブル梱包材の開発を進めているところで、今年中に利用を始めたいと考えています。またリターナブル梱包材の利用に関して他のリサイクル部品流通団体からの問い合わせもあり、業界全体で利用を広げたいと考えているところです。



青い普通車用と緑の軽・小型車用のバンパー用リターナブル梱包材。普通車用はマフラーにも応用可能



試作途中の軽エンジン用のリターナブル梱包材

■環境リスクマネジメント

組合員企業の事業内容・立地条件から想定される環境リスク（環境事故・環境汚染・法令違反など）について未然防止とリスクの最小化に取り組んでいます。特に「排水・排出ガス」「油類・化学物質の漏えい」「土壌・地下水汚染」「騒音・近隣からの苦情」には適正に対応して①異常を発生させない②万一発生した場合は、被害の最小化と確実な対処、情報開示を方針として日常点検、監視管理などを実施しています。

■商品・サービスを通じて環境意識の向上を啓蒙しています

NGPは使用済み自動車の適正処理への理解と、リサイクル部品を広く利用していただくための広報活動に努め「環境にやさしいリサイクル部品」をテーマに啓蒙ツールを作成し、提携企業・団体と協力して、日常の活動、イベント・キャンペーンにと啓蒙運動を実施しています。詳しくは組合のHPでもご案内しています。

リサイクル部品利用によるCO₂削減効果の公表について

環境問題からリサイクル部品によるCO₂削減効果を早稲田大学環境総合研究センターとJAPRA（日本自動車リサイクル部品協議会）の共同研究で07年6月より公表することにしました。データはJAPRAシステムとNGPシステムの販売点数からCO₂削減の数値を毎月計測して発表します。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合販売分より/2010年度分

	2010年 9月	10月	11月	12月	2011年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	合計
販売点数	177,408	181,990	175,971	180,920	175,314	176,789	177,573	207,585	171,721	179,918	181,991	173,309	2,160,489
CO ₂ 削減値 (kg-)	6,641,654	6,742,299	6,555,147	6,805,524	6,469,957	6,551,912	6,456,998	7,095,413	6,399,109	6,667,954	6,764,575	6,438,660	79,588,203

※販売点数はリサイクル部品を対象としています。

リサイクル部品の環境負荷削減効果評価システム

- 1. 目的**

現在、地球温暖化防止問題は国際的課題であり、わが国でも「京都議定書」に基づくCO₂排出削減目標が決定されているが、その達成が困難視されている。またCO₂排出削減目標も大手企業の課題として受け取られており、中小企業は範疇外となっているのが現状。

自動車リサイクル部品の流通に携わる業態は中小零細企業が多いが、今回の産学協同研究の結果、リサイクル部品の流通そのものがCO₂排出削減に寄与することが数値的に明確になったことから、業界団体である日本自動車リサイクル部品協議会は、加盟団体9グループ（部友会・システムオートパーツ・自動車補修部品研究会・日本パーツ協会・トータルカーリサイクルグループ・シーライオンズクラブ・ジャパンエコネット会・テクルネットワーク・リビルド工業会全国連合会）及び有力会員であるNGP事業協同組合と協力して販売データを集約し「CO₂排出削減量」を公表、国が目指すCO₂削減活動の一助とすることにした。
- 2. 実施概要**

①早稲田大学環境総合研究センターは、日本自動車リサイクル部品協議会（以下リサイクル部品協議会という）の協力を得て、自動車リサイクル部品の環境負荷削減効果に関するデータベースの蓄積と個々部品の効果ポイント数値の精度を上げる。毎年の継続した研究テーマとする。

②リサイクル部品協議会は、JAPRAシステム及びNGPシステム上の
- 3. 今後の展開**

①早稲田大学環境総合研究センターとリサイクル部品協議会は、継続してリサイクル部品に関わる環境負荷低減の共同研究を続ける。

②早稲田大学環境総合研究センターとリサイクル部品協議会は、日本国内での「CO₂排出権取引」開始を想定、業界としての参画の検討及び「リサイクル部品のCO₂排出削減寄与」の位置付けを検討する。

③早稲田大学環境総合研究センターとリサイクル部品協議会は、「リサイクル部品の環境負荷削減効果評価システム」の国際的な普及・啓蒙を促す活動を進める。

VOICE ● 組合員の声

「リターナブル梱包材」を活用しています

省エネ法の改正により物流での省エネ対策がますます重要になり、当社もCO₂排出量と包装材料の削減を目的に「リターナブル梱包材」を採用しました。協力していただく得意先からも好評で「リターナブル梱包材」は具体的な目に見える環境対策としてインパクトが高いようです。今後はさらに梱包材の数量・種類を拡大してエネルギー・廃棄物減量に貢献していきたいと考えています。



物流プロジェクトメンバー
増田 嘉久
茨城オートパーツセンター
代表取締役

防災と安全の再点検

東日本大震災は人々に自然災害の恐ろしさをあらためて刻み付きました。リスク管理の取り組み如何が企業の存続にかかわってくるといっても過言ではないと思いました。この震災から事業所を取り巻くリスクを認識した上で、危機の未然防止や万一が発生した場合の損害の極小化に取り組み、危機発生時にも事業を継承できる体制づくりを進めたいと思います。



東北支部指導員
白石 智也
南サンアール 販売部長

「エコプロダクツ2010」に出展

CO₂削減につながる 自動車リサイクル部品をPR

NGPは12月9～11日、東京都江東区有明の東京ビッグサイトで開かれた「エコプロダクツ2010」に出展し、CO₂排出削減につながる自動車リサイクル部品を積極的にPRしました。エコプロダクツへの出展は自動車リサイクル部品業界ではNGPだけで、5年連続しての単独出展となりました。

廃車・事故車などの使用済み自動車を適正処理する過程で、再利用可能な部品を取り外して商品化し、リサイクル部品として事故車などの修理に供給するという循環型システムを紹介するとともに、今年もリサイクル博士が登場し、フロンガスの回収、エアバックの処理なども含めてNGPの活動がCO₂排出削減をはじめとした地球環境の保全につながっていることを紙芝居を使って分かりやすく説明しました。ブース内をめぐるクイズの反応も良く、リサイクル部品の有効性を来場者に浸透させることができました。

今回はNGP組合員の茨城オートパーツセンター（増田嘉久社長、茨城県小美玉市）が製作したコン

バートEV（電気自動車）の展示も行いました。周囲の自動車メーカーブースで最先端のEV展示があり、これとの比較で、中古車をベースにリサイクル部品なども活用し作り上げたコンバートEVに関心を示す来場者もたくさんいました。廉価なEVがあれば乗ってみたいというユーザーは案外多いのかもしれない。



温暖化防止にリサイクル部品の有効性を訴えたNGPブース



子どもたちも興味津々、クイズを通じて楽しみながら理解を深めた



コンバートEVも立派なEV、もったいないを基本にCO₂排出を削減する

「エコプロダクツ東北2010」に東北支部が出典

リサイクル部品の普及を呼びかける

NGP協同組合の東北支部（中里明光支部長）は2010年10月14日～16日に宮城県仙台市の夢メッセみやぎで開かれた「エコプロダクツ東北2010」に出展しました。エコプロダクツ東北は毎年12月に東京ビッグサイトで行われているエコプロダクツの東北版で、宮城県や仙台市、東北電力をはじめとした東北地区の有力企業とともに「エコプロダクツ・ソリューション・新エネルギー・省エネルギー」ゾーンにブースを設けました。自動車リサイクル業界では唯一の出展になります。

ブース内では東北支部組合員のエコブリッジが製作した自動車のカットモデルやさまざまなリサイク

ル部品を展示しました。またエコバッグ1500枚を用意してリサイクル部品のパンフレットとともに来場者に配布して、地球温暖化防止・CO₂排出削減につながる自動車リサイクル部品の利用を呼びかけました。



会員各社の生産者・フロントマンが会場スタッフとして参加



子どもたちも東北支部のブースに興味津々

第三者意見



秋田憲作 氏

日刊自動車新聞社
編集局第2部記者

ご略歴

1998年日刊自動車新聞入社。営業局第2部で営業記者として自動車リサイクルと車体整備を担当。2007年4月編集局に移動、第3部に配属、整備全般と自動車リサイクルの取材に携わる。2009年12月からは中古車全般を取材対象に加え、2011年10月から編集局第2部記者として自動車部品分野の取材を担当する。

3月11日に発生した東日本大震災は日本の自動車産業のサプライチェーンを寸断し、自動車生産をストップさせるなど、地震・津波の被災地はもちろんのこと、日本の産業に対しても甚大な被害を及ぼしました。自動車生産活動のストップは、販売可能な新車の量を限定し、回り回って中古車の発生減少、使用済み自動車の発生減少と自動車産業の裾野までさまざまな被害を及ぼしました。

NGP協同組合の2011年版「CSRレポート」によりますと、今期（2010年9月～2011年8月）に全組合員が取り扱った使用済み自動車処理台数は59万8529台にとどまり、前年同期比23.7%減と前期実績を大きく割り込んでいます。このことは、期首に新車販売促進策として政府が実施したいわゆる「スクラップインセンティブ」が終了したことに加え、東日本大震災が国内の自動車生産・販売に及ぼした多大な影響を受けて使用済み自動車の発生量が減少したためと推察いたします。この厳しい環境下で、NGP協同組合の自動車リサイクル部品販売を金額でおよそ430億円、前年同期比7.0%増と伸ばした各位の努力に敬意を表します。

東日本大震災後、消費者の節約志向が顕著になったことがさまざまな調査・研究機関により指摘されています。自動車においても保有期間は毎年伸びており、1台を大切に乗り継ぐユーザーが増加する傾向にあります。こうした社会変化の中で、NGP協同組合が提供する自動車リサイクル部品販売はさらに注目されるようになると思われます。

自動車リサイクル部品を一般の消費者に知ってもらうための啓蒙活動として、NGP協同組合は毎年12月に東京ビッグサイトで行われる日本最大の環境展「エコプロダクツ」への単独出展を重ね、認知度アップに努めています。また、各支部や個々の組合員が地域イベントに参加し、地球環境に優しい自動車リサイクル部品の啓蒙に努めているともうかがっています。

日本経済は先行きの不透明感が強まり、事業環境は厳しさを増すと思われますが、今後ともこうした啓蒙活動を続けるとともに、消費者を裏切ることがない高品質な自動車リサイクル部品の提供に努めていただくことを期待しています。



有田芳子 氏

主婦連合会副会長
環境部部長

ご略歴

エコプロ生協理事、コープかながわ理事、ユーコープ事業連合理事、全国消費者団体連絡会事務局を経て現職。一貫して公害・環境問題に関わる。経済産業省日本工業標準調査会委員、経済産業省化学物質審議会委員、農林水産省資材審議会委員（2011年10月現在）などを務める。

これまで自動車リサイクルに関しては、フロン回収処理の状況、中古部品の適切なりサイクル、その他の適切な処理等に関心を持ってきました。

しかし今回の東日本大震災で、被災された方々の状況はもとより、大量の被災車両の回収や廃棄処理も気になっていました。

「トップコミットメント」の後に特集として、東日本大震災復興支援に損保会社の協力を得て、被災車両対策本部を設置したことなどが20数枚に及ぶ写真とともに報告されています。車内に残された遺留品にも心を馳せ、被災車両をとり扱われたようです。日ごろの事業活動を生かしたこのような支援の取組報告は、自動車リサイクル法への対応だけでなく環境社会課題にNGPをあげて取り組まれていることが分かり信頼性が高まりました。

コンプライアンスやリスクマネジメントなど細かく決められていて、思った以上にCSR経営の活動基本が決められていることや、損害保険会社・オートリース会社などと提携し、使用済み自動車の適正処理とリサイクル部品を活用する修理の推進に協力されていること、部品規格の統一化、技術教育、啓蒙活動等多岐にわたって活動されていることなど、すばらしい活動をされていることを失礼ながら初めて知りました。

2011年度は特集の東日本大震災の復興支援がステークホルダーとのコミュニケーションの中心となったとは思いますが、事業報告と活動概要だけで各ステークホルダーの声がなく、活動の進捗状況があまり見えないのが残念です。

例をあげますと「主なステークホルダーとNGPの責任」の地域社会「それぞれの地域の文化・慣習の尊重」をどのような方法で実施されているかなど具体例があれば分かりやすいと思いました。また従業員とのコミュニケーションとして「人権尊重」があり、現実にはどのような人権尊重が行われているか、実際にステークホルダーである従業員の方の声を聞きたいものです。

今後とも環境保全に資する活動と事業活動を期待します。

組合概要

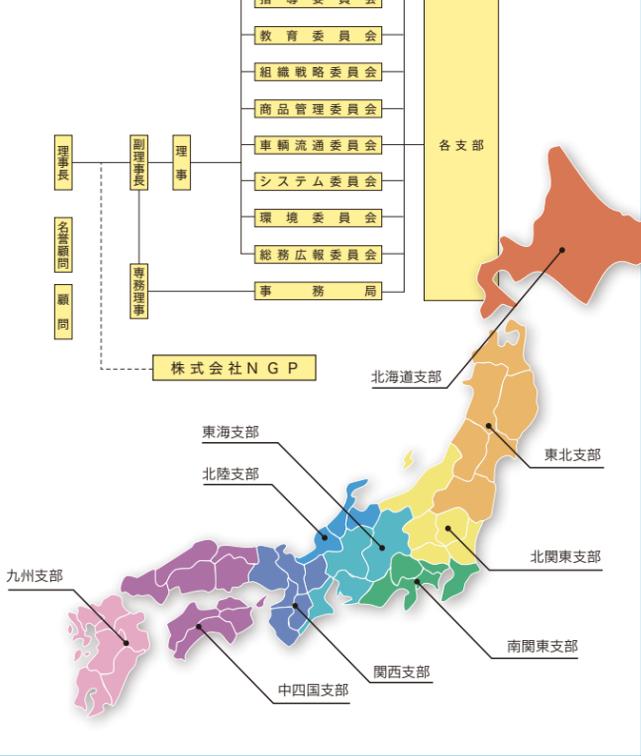
組織概要

組織名 NGP日本自動車リサイクル事業協同組合 (所管 経済産業省)
本部 〒108-0074 東京都港区高輪3-25-33 長田ビル
TEL.03-5475-1208 FAX.03-5475-1209
創立 1985年4月
理事長 大橋岳彦
組合員数 142組合員、198拠点
主な事業内容 健全な自動車リサイクル事業の構築を目指し、全国組合員企業の経営意識向上、意識改革までの「企業の社会的責任」を遂行し、補修部品の消費者への啓蒙と販売

株式会社NGP

NGP協同組合の関連会社で、2003年9月にNGP協同組合本部と同一事務所(品川)に本社を移転し、組合と一体体制のもと、NGP協同組合支援を中心に事業活動を展開しています。
その事業内容は、NGPシステムの運営管理、損害保険会社及びリース会社等の使用済自動車引取受付業務、ISO14001のコンサルティング等で幅広く会員企業の経営拡大をサポートしています。
また新たな自動車リサイクル時代に向けて、新システム活用の「NGPダイレクト」や「事故車画像見積システム」を開発するなど、グループ戦略を推進しています。
●TEL.03-5475-1202 ●FAX.03-54751207
●創立/1990年11月 ●資本金/4,000万円
●代表取締役/大橋岳彦

組織図



組合員名簿 (2011年9月現在)

Table listing member companies with columns for Code, Company Name, Postal Code, Address, and Phone Number. Includes entries for Hokkaido, Aomori, Iwate, Miyagi, Fukushima, Ibaraki, Tochigi, Gunma, Saitama, Chiba, Tokyo, Kanagawa, Niigata, Toyama, Ishikawa, Fukui, Shiga, Kyoto, Osaka, Hyogo, Aichi, Gifu, Shizuoka, Yamanashi, Nagano, Iida, Nagasaki, Saga, Fukuoka, and Kumamoto.

Continuation of the member company list table, covering companies in Chiba, Tokyo, Kanagawa, Niigata, Toyama, Ishikawa, Fukui, Shiga, Kyoto, Osaka, Hyogo, Aichi, Gifu, Shizuoka, Yamanashi, Nagano, Iida, Nagasaki, Saga, Fukuoka, and Kumamoto.

Table listing member companies with columns for Code, Company Name, Postal Code, Address, and Phone Number. Includes entries for Chiba, Tokyo, Kanagawa, Niigata, Toyama, Ishikawa, Fukui, Shiga, Kyoto, Osaka, Hyogo, Aichi, Gifu, Shizuoka, Yamanashi, Nagano, Iida, Nagasaki, Saga, Fukuoka, and Kumamoto.

Table listing member companies with columns for Code, Company Name, Postal Code, Address, and Phone Number. Includes entries for Chiba, Tokyo, Kanagawa, Niigata, Toyama, Ishikawa, Fukui, Shiga, Kyoto, Osaka, Hyogo, Aichi, Gifu, Shizuoka, Yamanashi, Nagano, Iida, Nagasaki, Saga, Fukuoka, and Kumamoto.